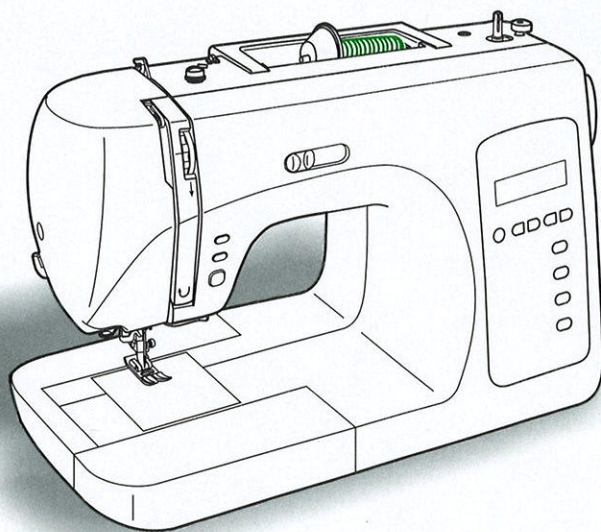


使用の手びき

● 型式：BC8500 ●

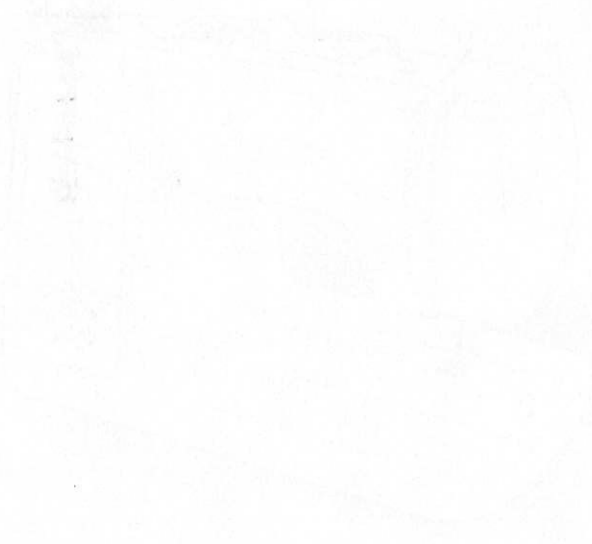


このミシンを安全にお使いいただくため、この「使用の手びき」をご使用前に必ずお読みください。「使用の手びき」は手元に保管し、末長くご活用ください。

去町手〇銀更

〇 002908 友恵 〇

1
2
3
4
5
6
7
8
9
10
11
12
13
14
15
16
17
18
19
20
21
22
23
24
25
26
27
28
29
30
31
32
33
34
35
36
37
38
39
40
41
42
43
44
45
46
47
48
49
50
51
52
53
54
55
56
57
58
59
60
61
62
63
64
65
66
67
68
69
70
71
72
73
74
75
76
77
78
79
80
81
82
83
84
85
86
87
88
89
90
91
92
93
94
95
96
97
98
99
100



はじめに

このたびは、お買い上げいただき、まことにありがとうございます。

このミシンは、直線ぬいやジグザグぬいはもちろん、ホームソーイングに必要なぬいが簡単にできるコンピュータミシンです。このミシンの特長をご理解いただき、正しくお使いいただくために、まずこの「使用の手びき」をよくお読みください。「使用の手びき」は、保証書と共に大切に保管してください。

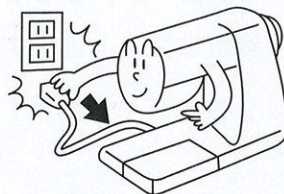
安全にご使用いただくために

このミシンを安全にご使用いただくために、以下のことがらを必ず守ってください。

このミシンは、日本国内向け、家庭用です。FOR USE IN JAPAN ONLY.

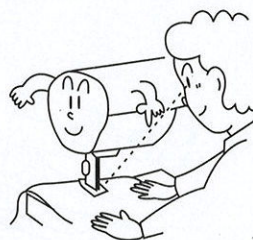
⚠ 警告 このマークの表示は感電、火災の恐れがありますから、特にご注意ください。

1. 一般家庭用交流電流 100V でご使用ください。
2. 以下のようなときは、電源スイッチを切り、電源プラグをコンセントから抜いてください。
 - ・ ミシンのそばを離れるとき。
 - ・ ミシンを使用したあと。
 - ・ ミシン使用中に停電したとき。
 - ・ 接触不良、断線などで正常に作動しないとき。
 - ・ 雷が鳴りはじめたとき。



⚠ 注意 このマークの表示は感電、火災、けがなどの原因となりますから、特にご注意ください。

1. お客さま自身での分解、改造はしないでください。
2. ミシンの操作中は、針から目を離さないようにし、針、はずみ車、天びんなどすべての動いている部分に手を近づけないでください。
3. ミシンの操作中はカマカバーなどのカバー類は必ず閉めてください。
4. 曲った針、先のいたんだ針はご使用にならないでください。
5. 縫製中に布を無理に引っ張ったり、押ししたりしないでください。



6. お子さまがご使用になるときや、お子さまの近くで使用されるときは、特に安全に注意してください。

7. 以下のことをするときは、電源スイッチを切ってください。

- ・針、針板、押え、アタッチメントを交換するとき。
- ・ランプを交換するとき。(ランプが冷えてから行ってください。)
- ・「使用の手びき」に記載のあるミシンの手入れをするとき。
- ・原則として上糸、下糸をセットするとき。



8. ミシンに以下の異常があるときは、速やかに使用を停止し、ご購入店にて点検、修理、調整をお受けください。

- ・正常に動作しないとき。
- ・落下などにより破損したとき。
- ・水に濡れたとき。
- ・電源コード、プラグ類が破損、劣化したとき。
- ・異常な臭い、音がするとき。

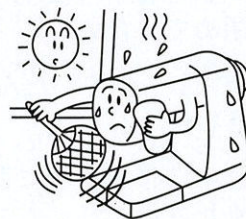
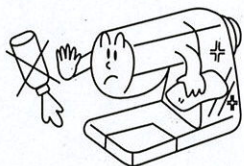
9. ミシンを正しく使用するために、安定したテーブルや机において使用ください。

ミシンの取り扱い

○ シンナーやベンジンなどでふかないでください。

○ 低温の場所から出したときは、普通の温度になじむまで、しばらく置いてください。時間がたてば正常に作動するようになります。保管は、なるべく寒いところをさけてください。

○ 直射日光にあてたり、高温多湿のところには置かないでください。



はじめに.....	2
安全にご使用いただくために.....	2-3
ミシンの取り扱い.....	3
補助テーブル・付属品.....	5
各部の名称とはたらき.....	6
左側面・前面/右側面・背面.....	6
針・押え部/操作部.....	7
表示パネル.....	8
アラームメッセージ.....	9
電源のつなぎ方.....	10
電源を入れます/電源を切ります.....	10
下糸をセットしましょう.....	11
糸こまをセットします.....	11
ボビンを取り出します.....	11-12
下糸を巻きます.....	12-13
ボビンをかまにセットします.....	14
上糸を通しましょう.....	15
上糸を掛けます.....	15-16
針に糸を通します.....	17
下糸を引きあげます.....	18
針を取りかえるには.....	19
良い針の調べ方.....	19
布地に適した針と糸を選ぶ方.....	20
押えを取りかえるには.....	21
取り外します/取り付けます/シームガイドのつけ方.....	21
模様を選び方.....	22
ぬい模様一覧.....	23
糸調子のとり方.....	24
基本縫い（直線縫い及びジグザグ縫い）.....	25
縫い目の長さを変えるとき/ふり幅を変えるとき.....	25-26
縫い方向をかえるには/返し縫い/止め縫い.....	27
厚地の縫い方/段縫い/薄地の縫い方.....	28
裁ち目かがり.....	29
ジグザグ押えを使用するとき/縁かがり押えを使用するとき.....	29
ボタンホール.....	30-33
芯入りボタンホール.....	33
まつり縫い.....	34
ファスナー付け.....	35
つきあわせ.....	35
脇あき/スライダーをよけてぬうには.....	36
つくろいぬい.....	37
伸縮ぬい.....	38
飾りぬい.....	38
その他の応用ぬい.....	39
スカラップ/シェルタック/ファゴティング/パッチワーク.....	39
ミシンの手入れ.....	40
かまの掃除/かまの分解/内がまと送り歯の掃除/かまの組み立て.....	40
液晶表示窓の清掃/本体表面の掃除.....	41
ランプの交換.....	41
困ったときには.....	42-43
修理サービス要領.....	44
仕様.....	45
フットコントローラー（別売り）.....	46

もくじ

ご使用になる前に

縫う準備をしましょう

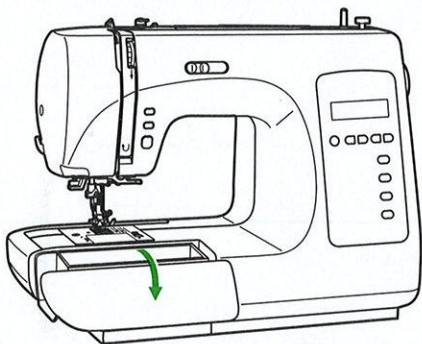
縫ってみましょう

いろいろな縫い方

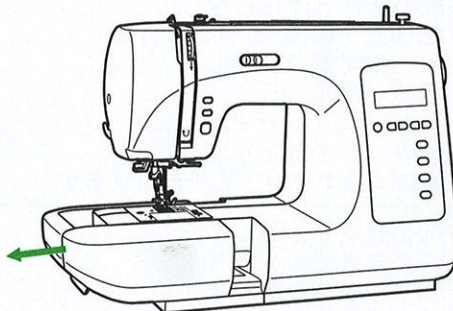
いつまでもお使いいただくために

補助テーブル・付属品

ご使用になる前に

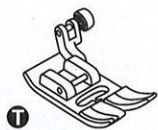


● 付属品箱は、手前方向に開けてください。



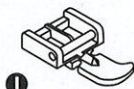
● 補助テーブルは左方向へ引くとはずれます。

● 付属品

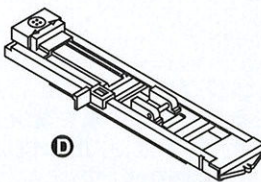


T ジグザグ押え

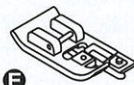
(ミシン本体についています)



I ファスナー押え



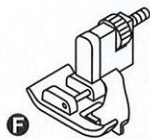
D ボタンホール押え



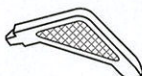
E 縁かがり押え



O ロックカッター押え



F ブラインドステッチ押え



ドライバー



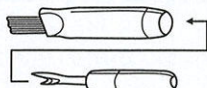
ドライバー (小)



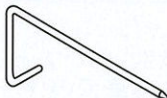
ボビン



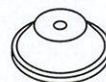
針パック



リッパー/ブラシ



シームガイド



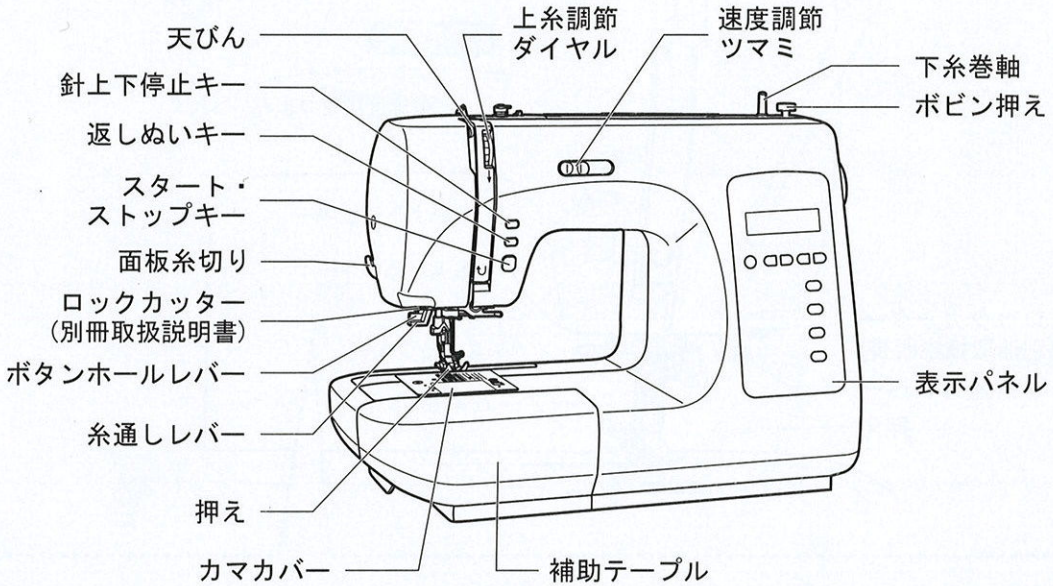
糸コマ押え

各部の名称とはたらき

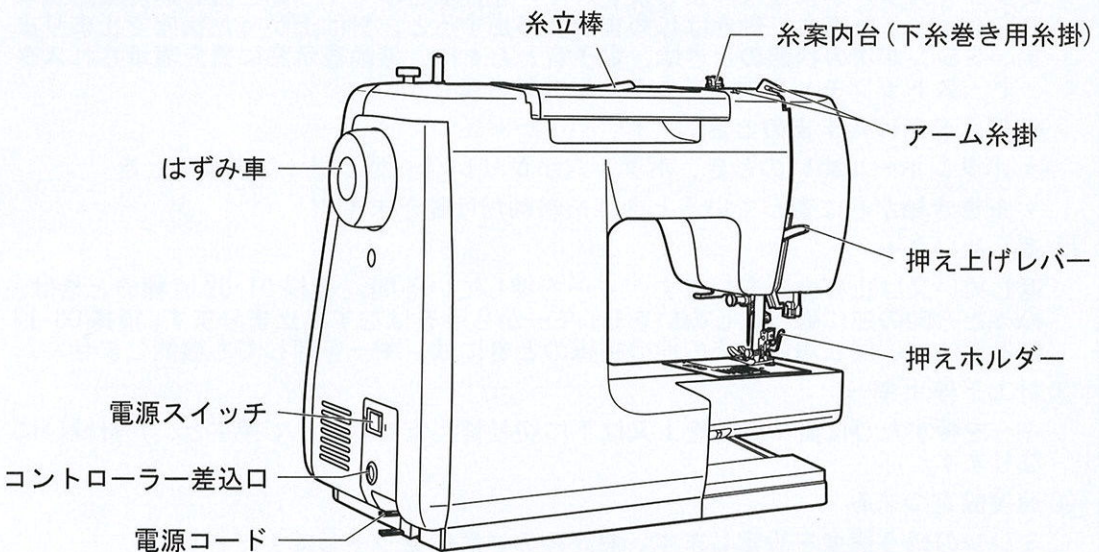
ここでは、ミシンの各部の名称とはたらきを説明します。ミシンをご使用になる前に、よく読んで各部の名称を覚えておきましょう。

ご使用になる前に

● 左側面・前面

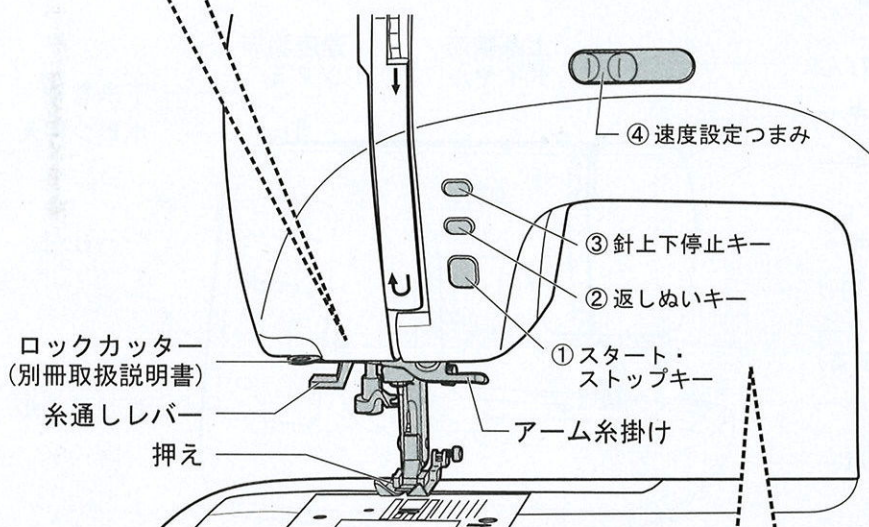


● 右側面・背面



● 針・押え部

このミシンには布を切りながら、裁ち目ががりのできるロックカッターがついています。ロックカッターの使い方については、別冊の「ロックカッター取り扱い説明書」をご覧ください。



● 操作部

ミシンを動かす基本的な操作が手もとでできます。

① スタート・ストップキー

ミシンをスタートまたは停止します。キーを押すとゆっくり動き出し速度設定つまみでセットした速さで動きはじめます。停止すると、針は上がった状態で止まります。ミシンが次の状態のときは、電子音とともに、液晶表示窓に警告表示されスタート・ストップキーを押してもミシンは動きません。

- * 押えをあげたままのとき。
- * ボタンホールぬいのとき、ボタン穴かがりレバーが上がったままのとき。
- * 糸巻き軸が右に寄っているときは糸巻軸だけ動きます。

② 返しぬいキー

返しぬい又は止めぬいをします。キーを押している間、模様 01, 02 直線のときは、ぬった方向の逆にぬう返しぬいをし、キーから手をはなすと止まります。模様 03~17 のときには、同じ場所でその他の模様のときには、キーを押しても機能しません。

③ 針上下停止キー

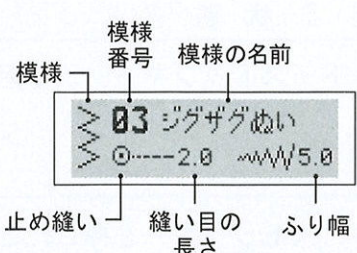
キーを押すたびに針の位置を上又は下に切り替えます。続けて押すと、1 針縫いになります。

④ 速度設定つまみ

ミシンの縫う速度を設定します。お好みの速度にセットしてください。左側に寄せると遅くなり、右側に寄せると速くなります。

● 表示パネル

表示パネルには、縫い模様をを選択するキーが付いています。



① 液晶表示窓

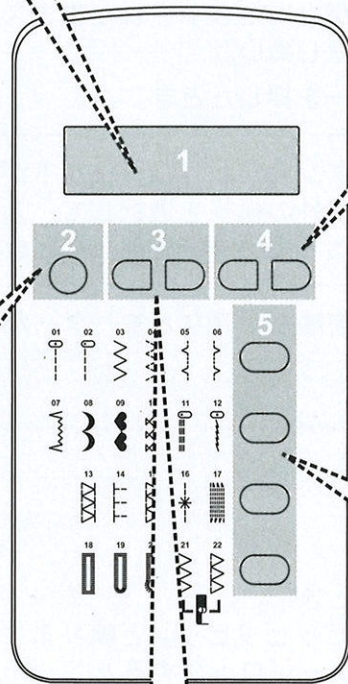
電源を入れると、自動的に直線(中基線)が選ばれ、この液晶表示窓に表示されます。模様選択キーを押して模様を選択すると、その模様の名称と、その模様に適した標準の縫い目の長さ表示されます。又まちがった操作をした時には、警告表示をしてお知らせします。

② 止め縫いキー

模様を選択した後、このキーを押すと液晶画面に、◎マークが表示されて、止めぬいをすることができます。もう一度押した時及び止めぬいキーを押してから他の模様を選択すると◎マークが消えて、機能は解除されます。

模様 01, 02, 03, 04, 11, 12 とき、キーを押すと3~4針止めぬいをして自動的に止まります。

その他の模様ぬいするとき、キーを押すと、模様の完了するところで止めぬいをして自動的に止まります。



④ ふり幅キー

ふり幅を変えるときに「+」キー又は「-」キーを押します。液晶表示窓にはそのふり幅が表示されます。

⑤ 模様選択キー

キーの左側に示された模様を選択し、1回押す毎に、右側に移動し、続けて押すと一番左側の模様に戻り繰り返し選択できます。詳細は「模様の選び方」(P. 22)で説明します。

③ 縫い目の長さキー

縫い目の長さを変えるときに「+」キー又は「-」キーを押します。液晶表示窓にはその縫い目の長さが表示されます。

アラームメッセージ

ミシンが正しくセットされていない状態で、スタート・ストップキーや返しぬいキーを押したときミシンは動かず、電子音とともに液晶画面にアラームメッセージが出ます。正しい操作をすると、消えます。

表 示	表 示 が 出 る 状 態
押え金をさげてください	押え上げをあげたままスタート・ストップキー、及び返しぬいキーを押したとき。
下糸巻きにセットしています	糸巻きをセットしてスタート・ストップキーを押したとき。
ボタン穴かがりレバーをさげてください	ボタンホールが選択された状態で、ボタン穴かがりレバーが上にセットされたままスタート・ストップキー、及び返しぬいキーを押したとき。
ボタン穴かがりレバーをあげてください	ボタン穴かがりレバーが下がった状態で、ボタン穴かがり以外の模様を選択して、スタート・ストップキー、及び返しぬいキーを押したとき。
説明書の「困ったときには」をごらんください	糸を噛んだ時などモーターがロックしたとき。

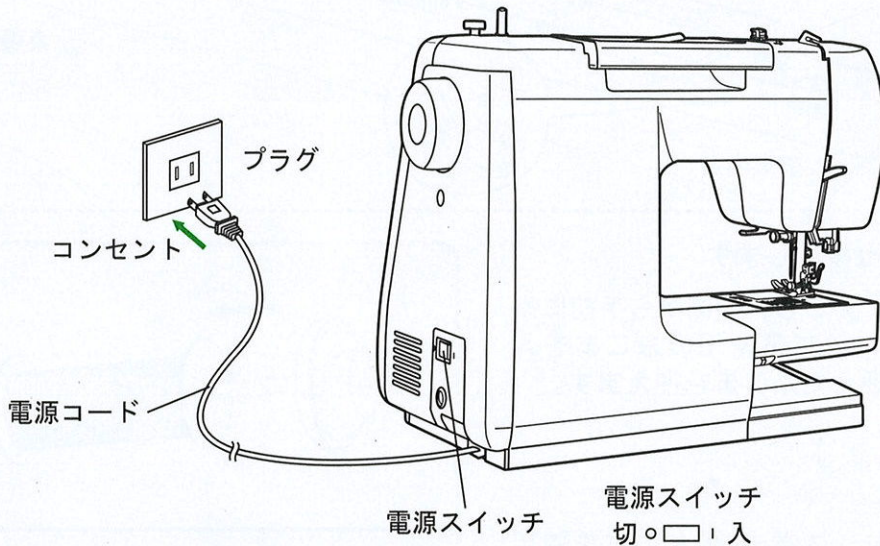
※ 電子音について

- * 正しい操作をしたとき
「ピッ」と鳴ります。
- * まちがった操作をしたとき
「ピッピッ」又は「ピッピッピッピッ」と鳴ります。
- * 糸を噛んだ時などモーターがロックすると
「ピッピッピッピッ」と4秒鳴り続けます。

電源のつなぎかた

⚠ **警告：** 感電、火災を防ぐために
電源は必ずプラグを持って抜き差ししてください。

⚠ **注意：** ケガ防止のために
○ 使用中に糸がからんだり、ミシンが止まった場合には電源スイッチを「切」にしてください。
○ ミシンを使用しないとき、ミシンから離れるときは、電源コードを外してください。



● 電源を入れます

- ① 電源プラグを持って引っ張りながら電源コードを引き出します。
 - 電源コードの端には、赤のテープが巻いてあります。この印が見えたら、電源コードをそれ以上引き出さないでください。
- ② 電源プラグを家庭用電源コンセント (AC100V) に差し込みます。
- ③ 電源スイッチを「入」にします。
電源が入り、ランプが点灯し、液晶表示窓に模様 01 直線が表示されます。

● 電源を切ります

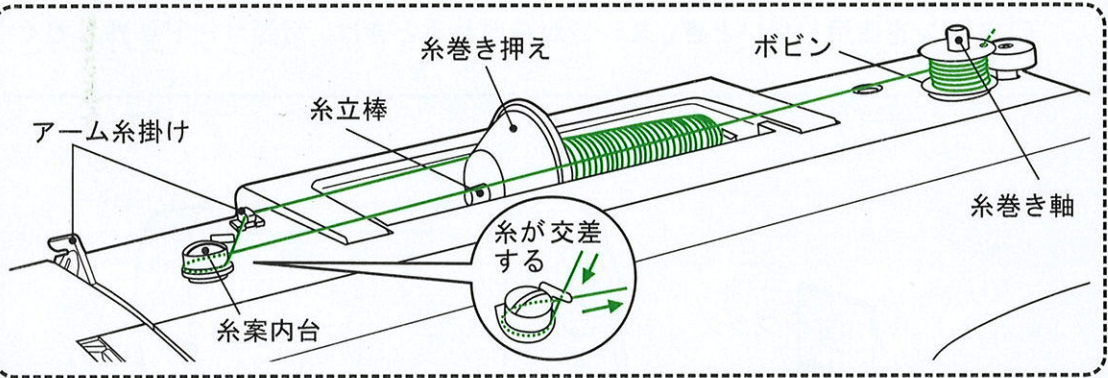
- ミシンを使い終わったら、電源を切ります。また、ミシンを移動するときは、必ず電源を切ってから移動してください。
- ① ミシンが止まっていることを確認します。
 - ② 電源スイッチを「切」にします。
電源が切れ、ランプが消えます。
 - ③ 電源プラグを持ってコンセントから抜きます。
 - ④ 電源コードを 1~5cm ほど引いて手を離すと電源コードが本体に収納されます。

下糸をセットしましょう

下糸用の糸をボビンに巻いてから、ミシンにセットします。

④ 注意：ケガ防止のために

- 糸こまの向きや糸こま押えが正しくセットされていないと、糸たて棒に糸がからまり、針折れの原因となります。
- ボビンをとりだすときは、必ず電源スイッチを切ってから行ってください。

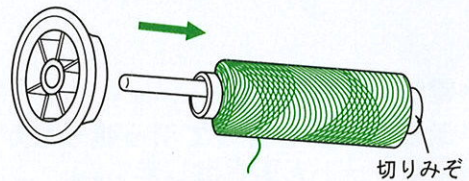
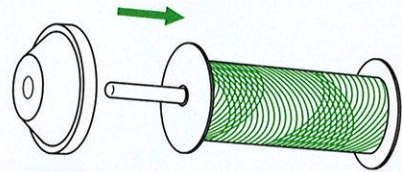


縫う準備をしましょう

●糸こまをセットします

糸立棒を軽くおこし、下側から手前に糸が出る向きにして下糸用の糸こまを入れ、糸こま押えで糸こまを押えます。

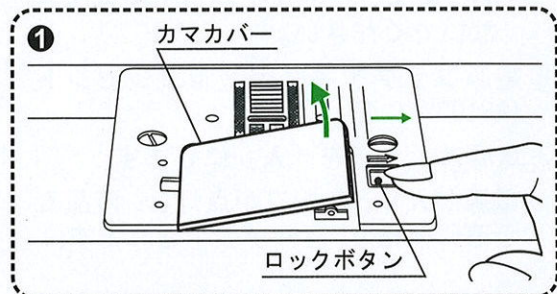
- 綾巻き(チーズ巻き)の糸こまを使用するときは、糸こま押え小を使用し、糸こまから少し離してセットします。



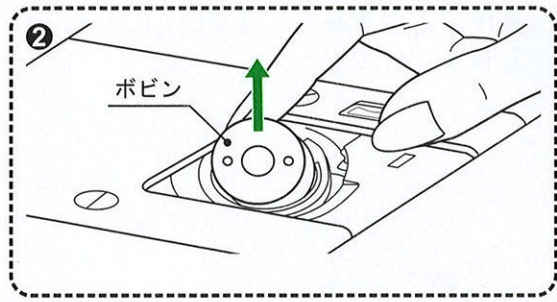
※糸巻きに切りみぞがあるときは、それを右側にしてください。

●ボビンを取り出します

- ①かまカバーの右側にあるつまみを右に動かします。

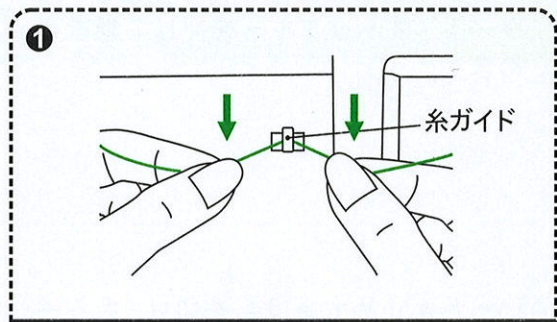


② かまカバーを外し、ボビンをとりだします。

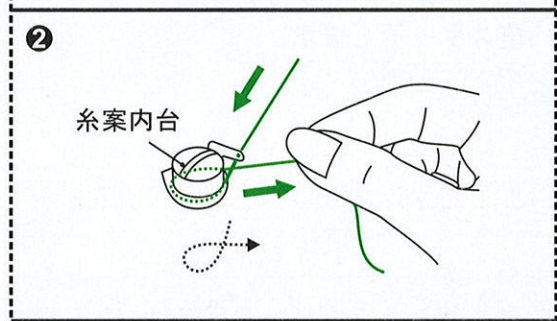


● 下糸を巻きます

① 糸こまから糸を引き出し、アーム糸掛けの後ろから手前に糸をかけます。

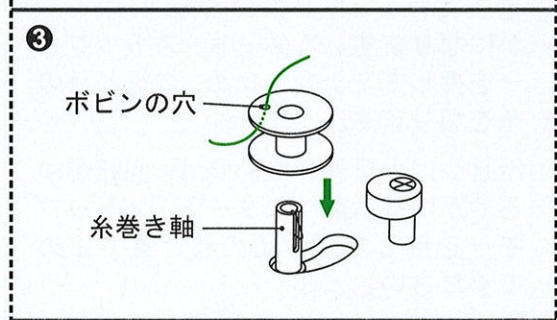


② かけた糸端を更に引いて糸案内台の糸ガイドから糸を通し、皿の間に左回りに糸をかけて糸を交差させます。

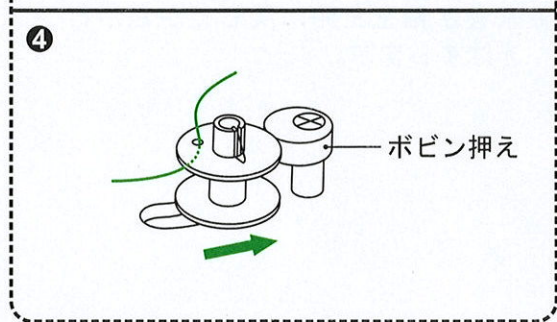


③ 糸案内台にかけた糸を引き出し、ボビンの穴に通します。

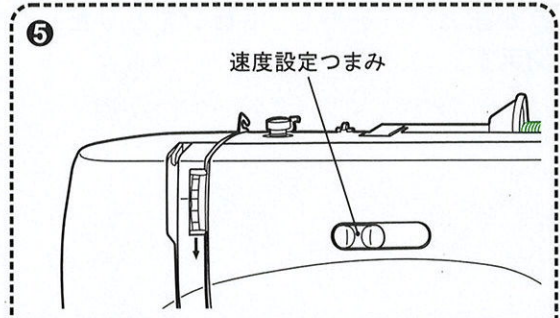
ボビンのミゾと下糸巻軸バネの位置を合わせて、ボビンを糸巻き軸に差し込みます。



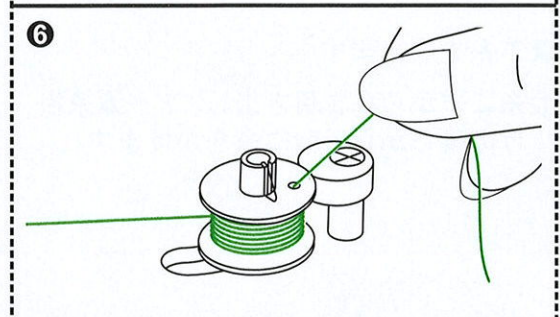
④ 軸にセットしたボビンを右側に押し込みます。



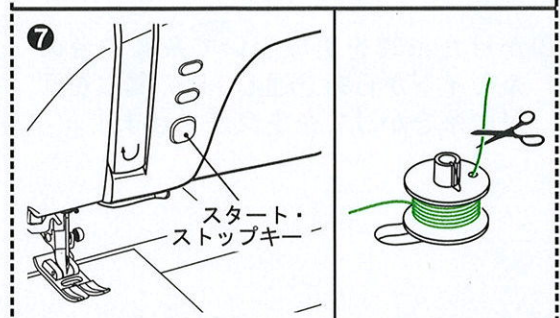
- ⑤ 速度設定つまみを「はやり」にセットします。



- ⑥ ボビンに通した糸端を持ったまま、スタート・ストップキーを押して巻き始めます。



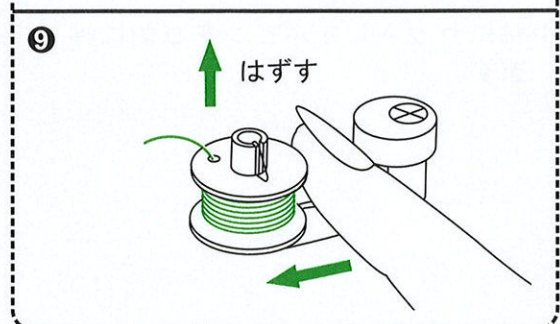
- ⑦ いったん止めて糸はしを切り、もう一度スタートします。



- ⑧ 巻き終わるとボビンの回転は、ゆるやかになります。スタート・ストップキーを押してミシンを止め、巻終わりの糸を切ります。

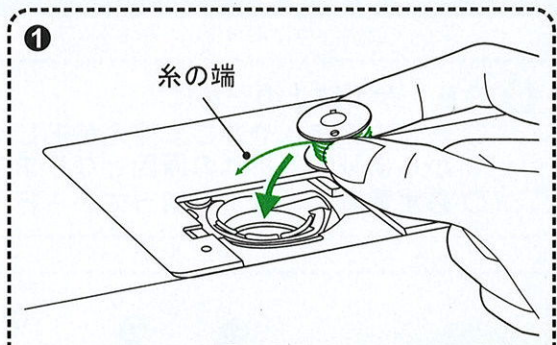
ボビンに少量巻きたい時は、回転がゆるやかになる前にスタート・ストップキーを押してご希望の巻き量で止めてください。

- ⑨ 糸巻き軸を左側に戻してからボビンをはずします。

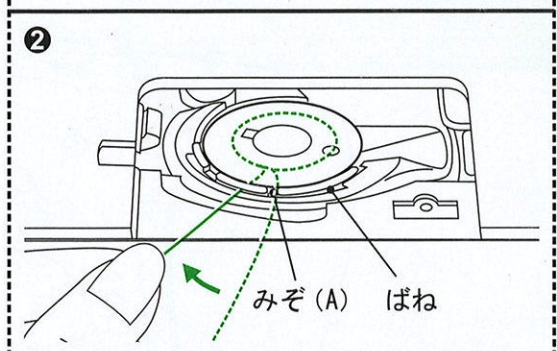


● ボビンをかまにセットします

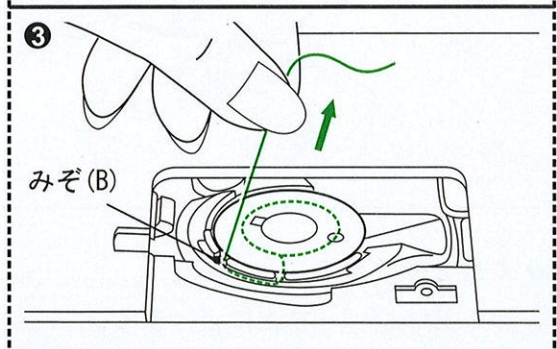
① かまカバーをはずし、糸の端を出してかまの中にボビンが左回りになるように入れます。



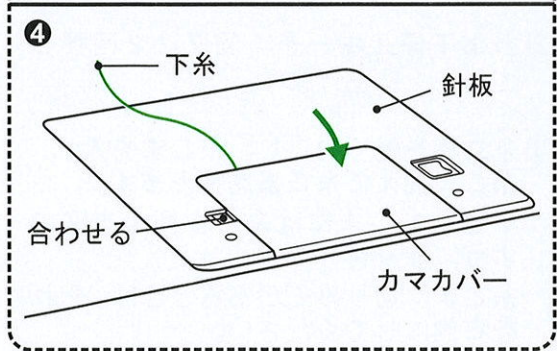
② 糸の端を引きながら、みぞ(A)にかけ、糸を矢印方向へ引っれば、糸が外周に入っていきます。



③ 糸みぞ(B)にかけ、そのまま後ろ側へ出します。



④ 針板とかまカバーの左端を合わせてから、かまカバーを押し、固定します。下糸は 10cm 位後ろへ引き出ししておきます。

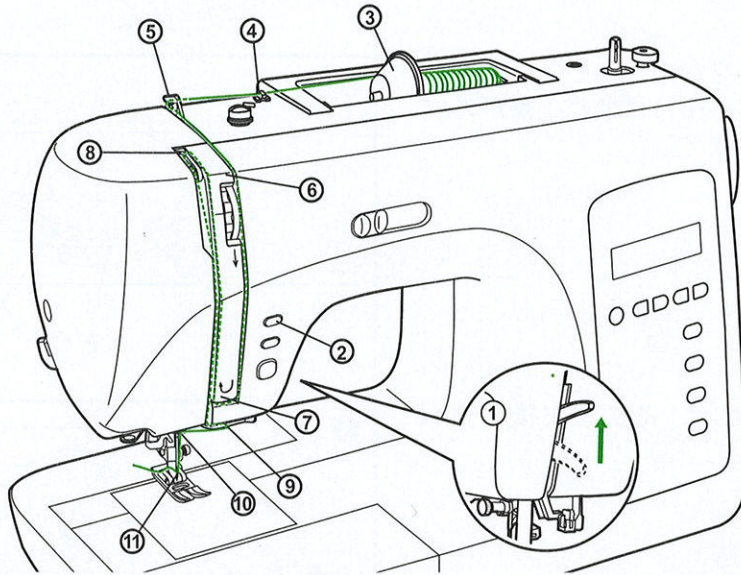


⚠ 注意: ケガ防止のために
ミシンを運転する際は必ずかまカバーを閉めてください。

上糸を通しましょう

⚠ 注意：ケガ防止のために

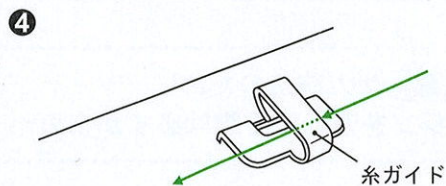
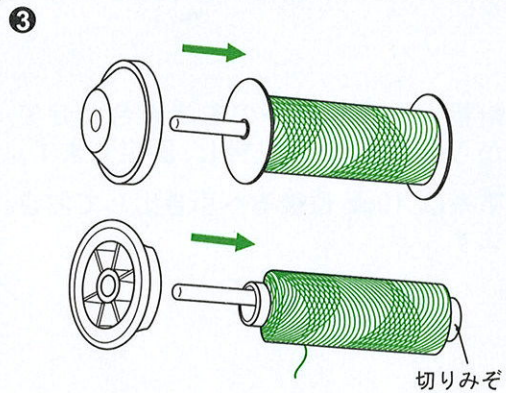
- 糸こまの向きや糸こま押えが正しくセットされていないと、糸たて棒に糸がからまり、針折れの原因となります。
- 必ず電源スイッチを切ってから行ってください。



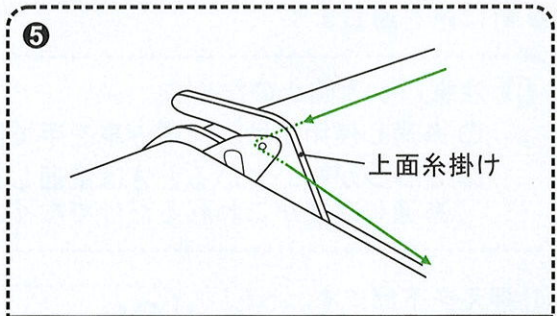
縫う準備をしましょう

● 上糸を掛けます

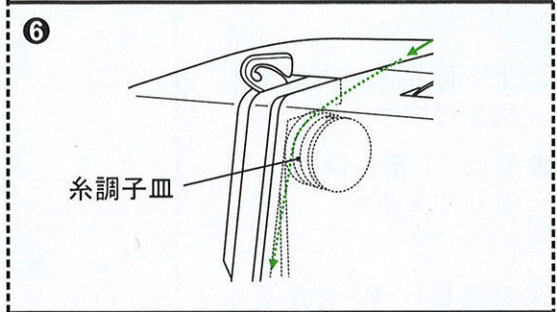
- ① 押え上げレバーを上へ上げます。
- ② 針上下停止キーを1回又は2回押し、針を上へあげます。
- ③ 糸立棒を軽くおこし、糸こまを入れ、糸こま押えで糸こまを押えます。
小さな糸こまには糸こま押えを図のように取り付けます。
糸こまに切りみぞがあるときは、それを右側にしてください。
- ④ 糸こまから糸を引き出し、糸ガイドの後ろから手前に糸を通します。



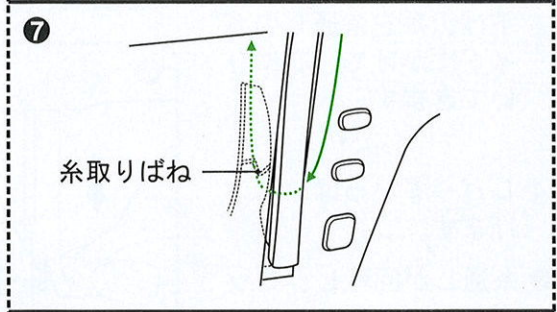
⑤ 通した糸をさらに引き出し上面糸掛けの溝から糸を掛けます。



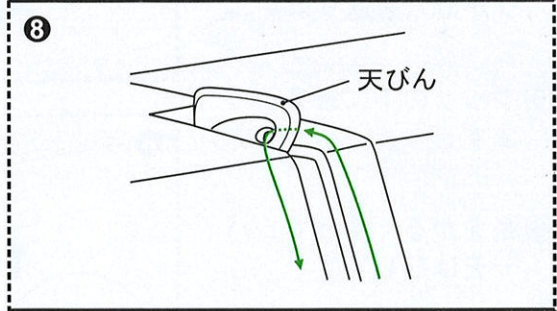
⑥ 上面糸掛けに掛けた糸をまっすぐ手前に引き、溝の中に入れて上糸調節の所から溝に沿って下に引いていきます。



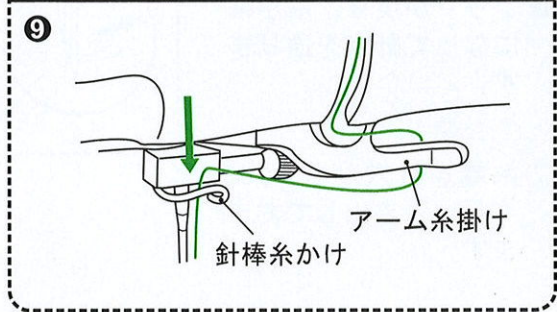
⑦ 溝の終わりから左側に糸を回し上に引き上げていきます。



⑧ 天びんに、右から後ろへ回して、左手前に引き穴の奥までかけます。



⑨ アーム糸掛けに糸は右側から掛け、続いて針棒糸かけに、右から糸をかけます。



このあと、糸通し装置を使って糸を針に通します。「針に糸を通す」(→次ページ)に進みます。

● 針に糸を通します

⚠ 注意：ケガ防止のために

- 糸通し使用中は、はずみ車を手で回さないで下さい。
- ミシンが動いているときは糸通しレバーに手を触れないでください。
糸通し装置がこわれるだけでなく、針が折れ、ケガのもとになります。

① 押えを下げます。

② 上下停止キーで針を上
に上げます。

● 針は 11 番、14 番、16
番が使えます。

③ 糸通しレバーをかるく
下げ、糸を糸通しのガ
イドにかけて、右にひ
いてきます。

④ レバーをいっぱいにな
げます。

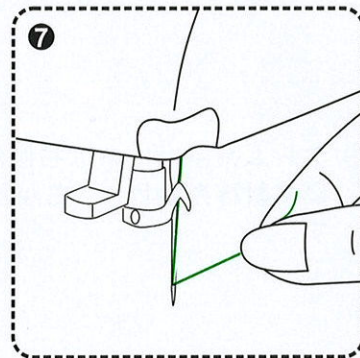
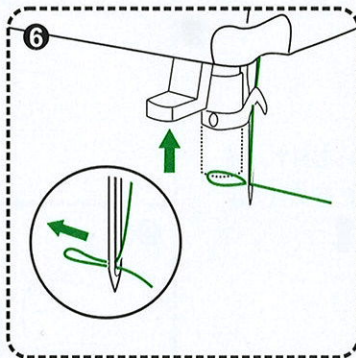
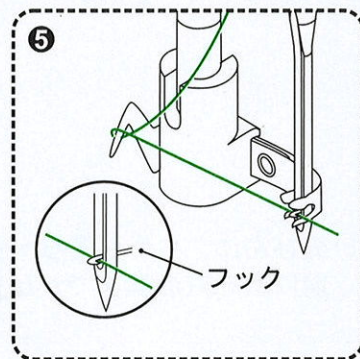
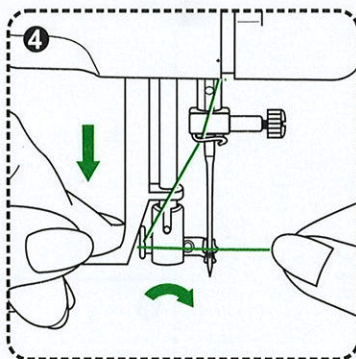
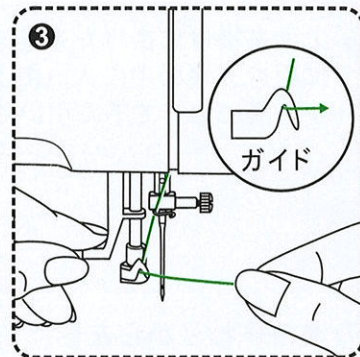
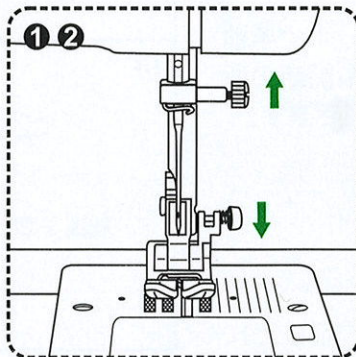
● 糸通しが回転し、フック
が針穴を通ります。

⑤ フックの下に糸をかけ
ます。

⑥ 糸をかるく持ってレバ
ーをはなします。

● フックが戻り、糸が輪
になって針穴を通りま
す。

⑦ 糸端を針穴から 10cm
くらい引き出しておき
ます。



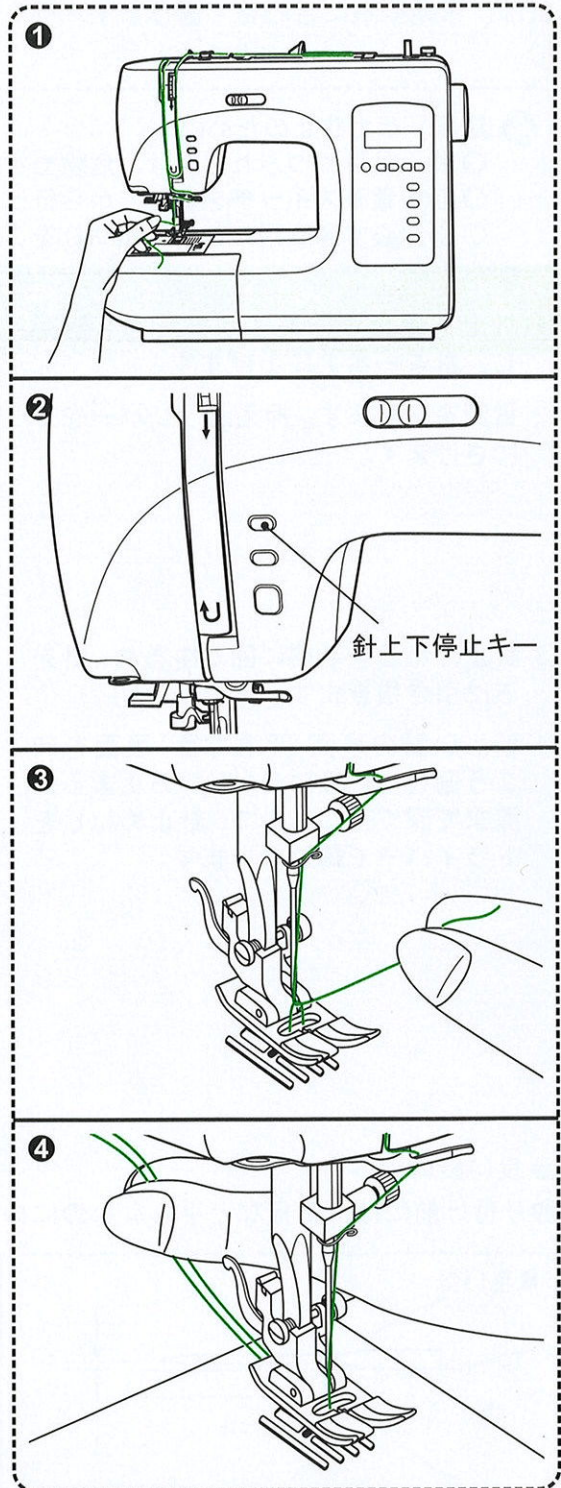
● 下糸を引きあげます

① 押え上げレバーを上へ上げ針に通した糸を左手で持ちます。

② 針上下停止キーを2回押し、針を上へ上げます。

③ 上糸を軽く引き上げると下糸が引き出されます。

④ 上糸と下糸をそろえて押えの下から後ろに10 cmほど出しておきます。



縫う準備をしましょう

針を取りかえるには

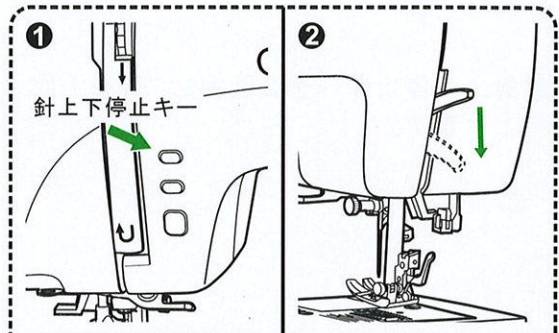
針は、布地や糸に合わせて選びます。ページの「針と糸の選び方」を参照してください。

① 注意：ケガ防止のために

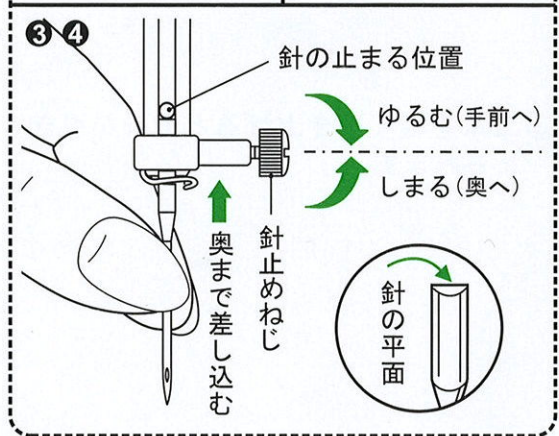
- 曲った針やつぶれた針は、危険ですので、ご使用にならないでください。
- 必ず電源スイッチを切ってから行ってください。
- 針は必ず家庭用ミシン針(HAXI)をご使用ください。

縫う準備をしましょう

- ① 針上下停止キーを1回または2回押し、針を一番上に上げます。
- ② 電源を切ります。押え上げレバーを下に下げます。

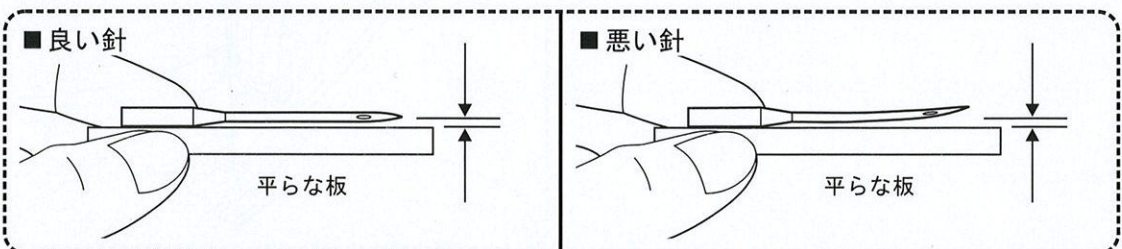


- ③ 針止めねじを手前に回しゆるめ、針を下に引き抜きます。
- ④ 新しい針の裏面(平らな面)裏面を向こう側(針棒側)に向け、針の止まる位置まで深く差し込んで、針止めねじをドライバーで締めつけます。



● 良い針の調べ方

取り付け前には、針板など平らなものにのせ、のぞいてみて確かめてください。



布地に適した針と糸の選び方

ミシン針は布地や糸の太さによって使い分けます。この表を目安に、布地にあった針と糸を選び、試し縫いをして確かめてください。

布地の種類		糸の番号	針の番号
薄地	薄地ジョーゼット、オーガ ンディー、ポイル、絹布な ど。	綿 80~100 絹 60~80 シャッペスパン系 90	9~11 番
普通地	ギンガム、リンネル、さら さ木綿、サテン、薄手コー デュロイ、別珍、一般服地 など。	綿 50~80 絹 50 シャッペスパン系 60	11~14 番
厚地	ギャバジン、ツイード、デ ニム、キルティング、コー デュロイ、ジーンズなど。	綿 40~50 絹 50 シャッペスパン系 30	14~16 番
伸縮性の布地	ダブルニット、トリコット、 スパンデックス、ジャージ など。	化繊系 50~80 絹 60 ニット用系	11~14 番 ニット用針

- 糸は数字が小さいほど太く、針は数字が大きいほど太くなります。
- ニット用針は伸縮性のある布地や目がとびやすい布地に使用します。
- 購入時は、14 番の針がミシンに取り付けられています。

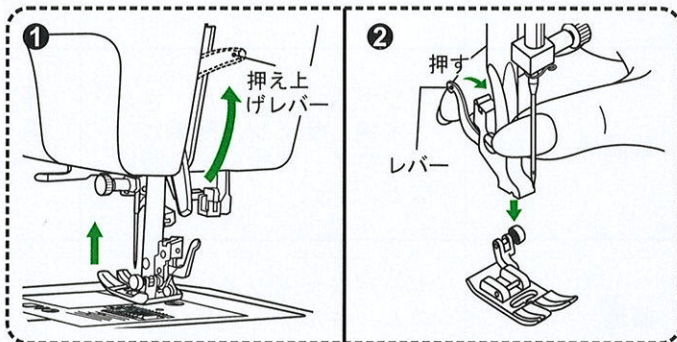
押えを取りかえるには

⚠ 注意：ケガ防止のために

- 模様に適した押えを使用してください。誤った押えを使用すると、針が押えに当たったり、曲ったりして、危険です。
- 必ず電源スイッチを切ってから行ってください。

● 取り外します

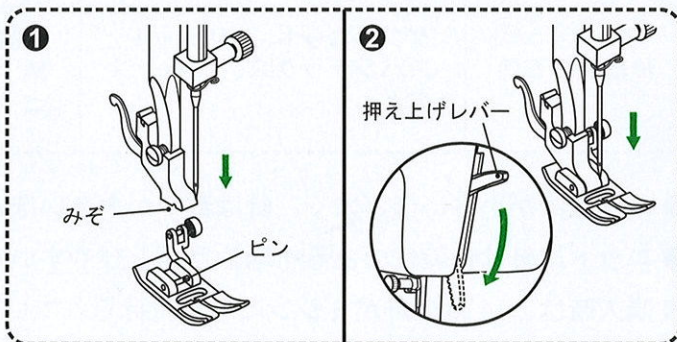
- ① 針上下停止キーを1回または2回押し針を上へ上げます。
押え上げレバーをあげます。
- ② 電源を切ります、指先で押えホルダーのレバーを手前へ引くと押えがはずれます。



● 取り付けます

- ① 交換したい押えのピンの部分を押えホルダーのみぞの真下におきます。
- ② しずかに押え上げレバーを下げピンをみぞに入れます。

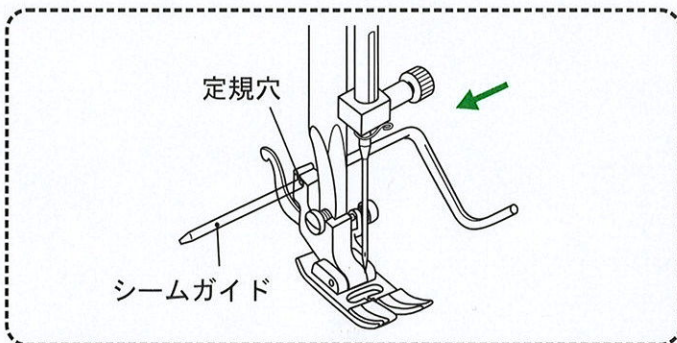
※ どの押えも、この要領で取りはずし、またセットできます。



● シームガイドのつけ方


シームガイドは押えホルダーの定規穴に、図のように差し込みます。

- シームガイドはしるしの線や前に縫ったステッチに平行に縫う時に使うと便利です。

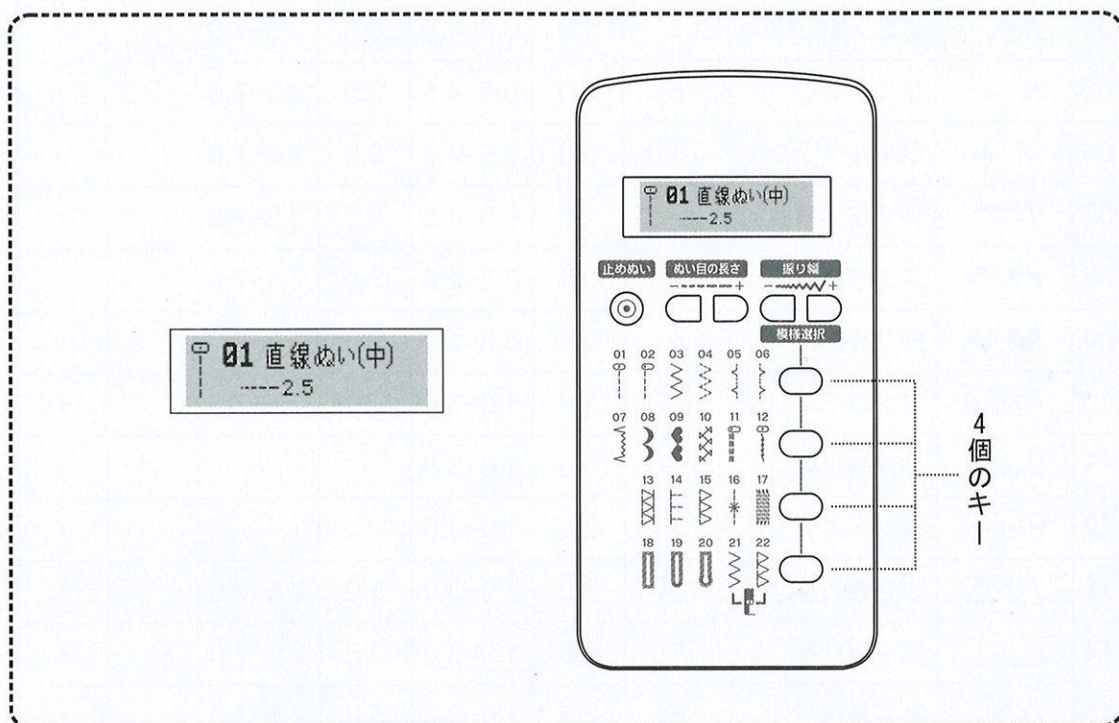


模様を選び方

表示パネルの4個のキーで模様を選択します。各キーは左側に印刷された模様の選択に対応し、キーを1回押す毎に、右側の模様に移動し、更に押しつづけると、一番左の模様に戻ります。以下繰り返します。

(例)  一番下の模様選択キーを2回押します。

電源を入れた直後は、01 直線ぬい「中」が選択され、下図のように液晶表示窓に表示されます。



縫ってみましょう

- ① 縫いたい模様を決めます。
- ② 選んだ模様にあった押えを準備します。
押えを取りかえます。
- ③ 電源を入れます。
- ④ 模様選択キーを押します。

選んだ模様には標準のぬい目の長さや幅が自動的に設定されていますが、変更したい場合には、「基本ぬい」(→P25)を参照してください。

ぬい模様を選ぶときは、次ページのぬい模様一覧を参考にしてください。

● ぬい模様一覧

No	模様	模様の名称	押え番号	ぬい目の長さ		ふり幅		返しぬい	止めぬい
				自動	手動	自動	手動		
01		直線ぬい(中)	T(P.K.I)	2.5	0.0~4.5	-	-	*	*
02		直線ぬい(左)	T(P.K.I)	2.5	0.0~4.5	-	-	*	*
03		ジグザグぬい	T(E)	2.0	0.3~4.5	5.0	2.5~7.0		*
04		点線ジグザグぬい	T	1.0	0.3~4.5	5.0	2.5~7.0		*
05		まつりぬい	F	2.0	0.5~4.5	3.5	2.5~7.0		*
06		シェルタック	T	2.0	0.5~4.5	5.0	2.5~7.0		*
07		伸縮まつりぬい	F	1.0	0.5~4.5	3.5	2.5~7.0		*
08		スカラップ	A	0.4	0.3~1.0	7.0	2.5~7.0		*
09		飾りぬい	A	0.4	0.3~1.0	7.0	2.5~7.0		*
10		ファゴティング	A(T)	3.0	1.0~3.0	7.0	2.5~7.0		*
11		伸縮強化ぬい	T(P)	3.0	1.0~3.0	-	-		*
12		ニットステッチ	T	2.5	1.0~3.0	-	-		*
13		つき合わせ	T(A)	3.0	1.0~3.0	5.0	2.5~7.0		*
14		アップリケ	T	3.0	1.0~3.0	3.5	2.5~7.0		*
15		裁ち目かがり	E	2.5	1.0~3.0	5.0	2.5~7.0		*
16		飾りぬい	A(T)	2.5	1.0~3.0	7.0	2.5~7.0		*
17		ダーニング	T	2.5	1.5~3.0	7.0	3.5~7.0		
18		ボタン穴かがり	D	0.5	0.3~1.0	5.0	2.5~7.0		
19		ネムリ穴かがり	D	0.5	0.3~1.0	5.0	2.5~5.5		
20		ハトメ穴かがり	D	0.5	0.3~1.0	7.0	5.5~7.0		
21		ヌイキル	O	2.5	2.0, 2.5	5.0	-		
22		ヌイキル	O	2.5	-	5.0	-		

*は返しぬい、止めぬいをすることができます。

糸調子のとり方

○通常、上糸調節ダイヤルを「A」に合わせてると正しい糸調子になるように調節されています。

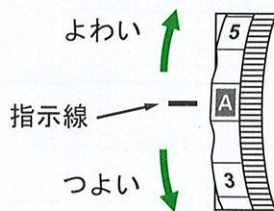
布や糸によって、糸調子がうまく取れない場合や、ギャザー寄せなどをするとき、右図のように上糸調節ダイヤルを回して、調節してください。

○右図のように、上糸と下糸が布の中間で交差して、かつ、布や糸がつれたり、たるんだりしていないのが正常です。

○↑の方向に回すと上糸調子は弱くなります。

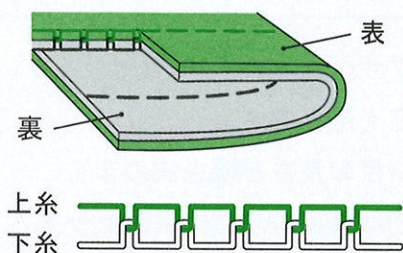
○↓の方向に回すと上糸調子は強くなります。

①



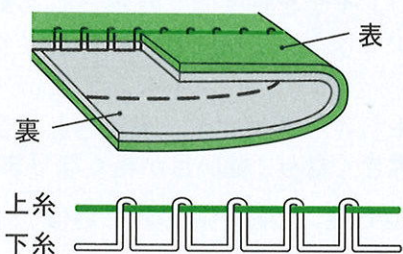
● 上糸調節ダイヤル

②



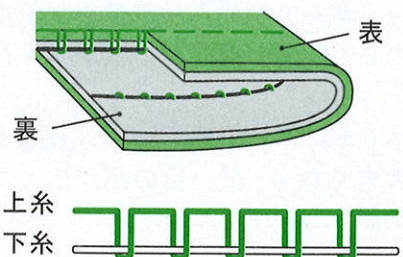
● 正しく調節されている場合

③



● 上糸が強い場合

④



● 上糸が弱い場合

基本縫い（直線縫い及びジグザグ縫い）

基本となる直線縫い及びジグザグ縫いをします。

直線ぬいは地ぬい、ギャザー、ピンタックなど、ジグザグ縫いは、通常のほつれ止めなどに使用します。

No	模様	模様の名称	ぬい目の長さ		ふり幅		押え
			自動	手動	自動	手動	
01	0-----	直線ぬい(中)	2.5	0.0~4.5	-	-	
02	0-----	直線ぬい(左)	2.5	0.0~4.5	-	-	
03	^/\/	ジグザグぬい	2.0	0.3~4.5	5.0	2.5~7.0	

① ジグザグ押え(T)を取り付けます。

② 模様を選びます。

③ 縫い目の長さと幅を決めます。

※ 最初は液晶表示窓に自動セットされた適切な長さと幅が表示されます。このまま縫う場合は変更する必要はありません。

☆ 縫い目の長さを変えるとき

「-」キーを押すと、表示される数値が小さくなり、縫い目が細くなります。

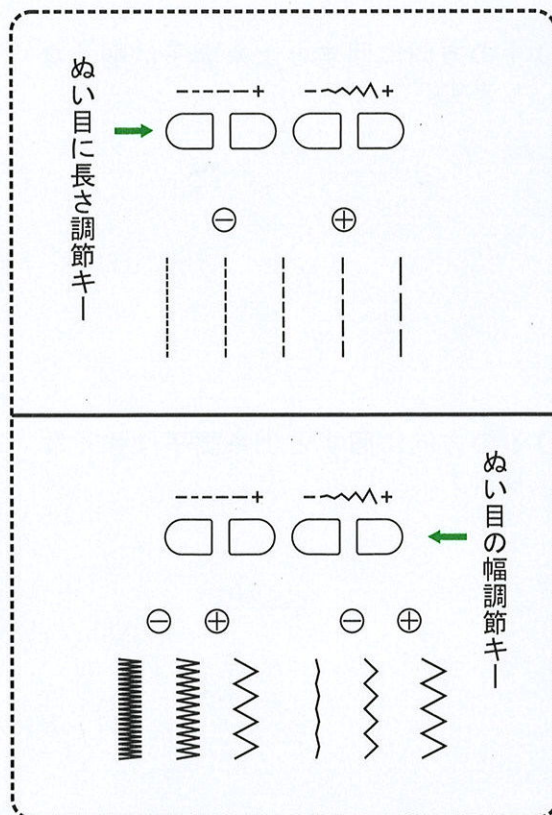
「+」キーを押すと、表示される数値が大きくなり、縫い目が粗くなります。

* 返し縫いの縫い目のあらかさは、2.5mm以上にはなりません。

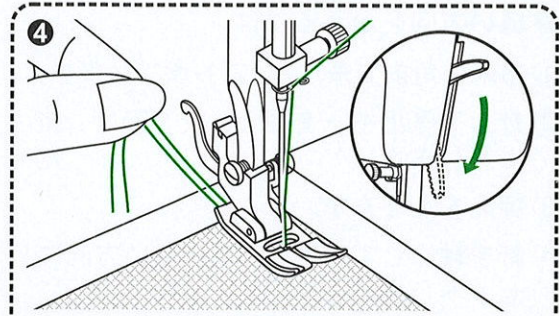
☆ 縫い目の幅を変えるとき

「-」キーを押すと、表示される数値が小さくなり、縫い目の幅が狭くなります。

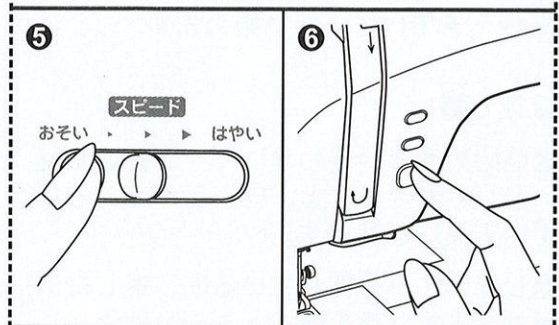
「+」キーを押すと、表示される数値が大きくなり、縫い目の幅が広がります。



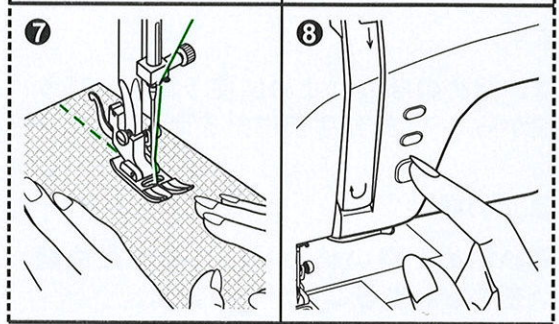
④ 布地を押えの下におき、縫い始める位置で針上下停止キーを押し、針を刺してから押えをおろします。



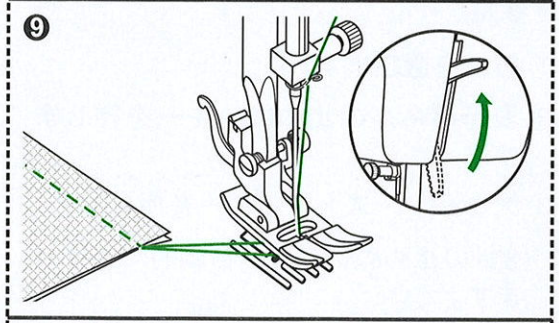
⑤ 縫い速度を設定します。



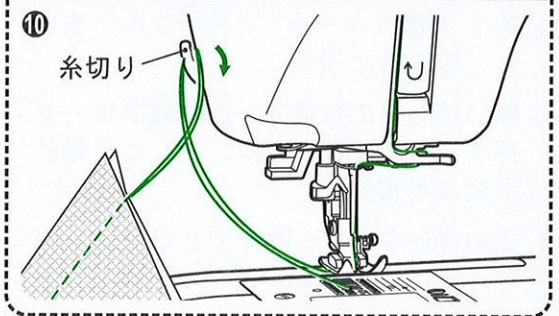
⑥ スタート・ストップキーを押してスタートします。



⑦ 布地に軽く手をそえます。縫っている間は布地を無理に引っ張らないようにします。



⑧ めい終わりましたら、針上下停止キーを押し、針を上げます。



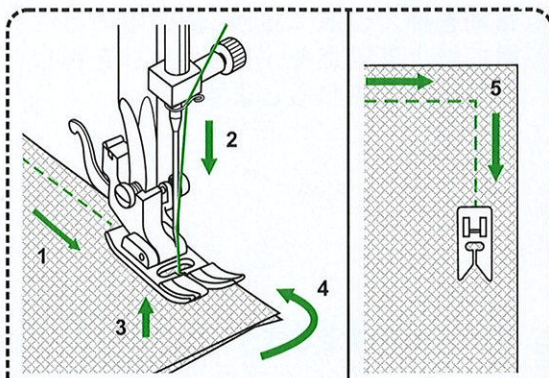
⑨ 押えを上げ、布地は後ろへ引いて布地をとりだします。

⑩ 面板系きりに糸をかけて手前下に引くと糸が切れます。

縫ってみましょう

● 縫い方向をかえるには

- ① 布地の角まで来たら、ストップします。
- ② 針上下停止キーを押し、針を下げ、布に刺します。
- ③ 押えを上げます。
- ④ 針を軸にして布地を回し、縫い方向にセットします。
- ⑤ 押えを下げて、縫い始めます。

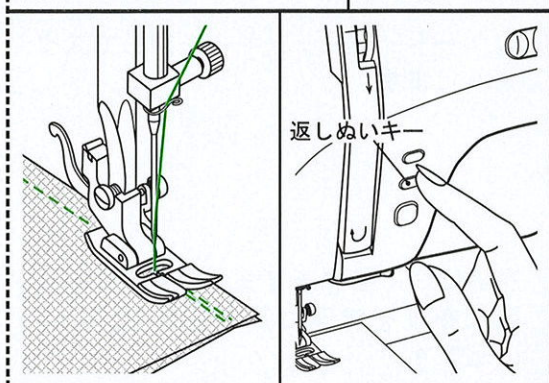


● 返し縫い

縫い始めや縫い終わりに 3~5 針返し縫いをしておきますと、縫い目がほころびず、丈夫になります。

返し縫いキーを押している間、返し縫いができます。手を離すとミシンは停止します。

縫い始めのほつれ止めに使う場合、縫う端から 3~5 針分手前に針を刺します。



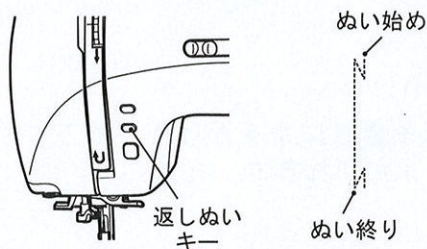
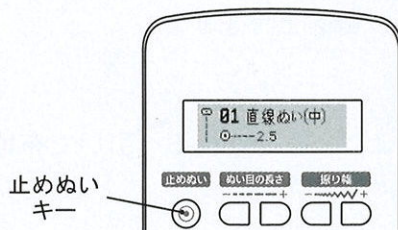
● 止め縫い

縫い始めと縫い終わりに自動で止め縫いをするよることができます。

* 参照 (→P8)

- ① 模様を選びます。
- ② 表示パネルの止め縫いキーを押します。
- ③ スタート・ストップキーを押します。
3針の止めぬいをして自動的に止まります。
- ④ もう 1 度スタート・ストップキーを押し、ぬい始めます。
- ⑤ ぬい終わりの位置で、止めぬいキーを押すと、3針の止めぬいをして自動的に止まります。

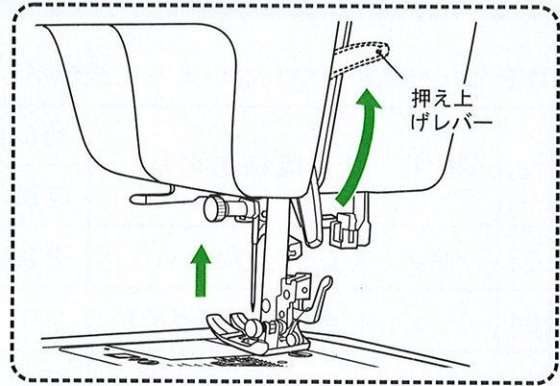
* 止めぬいキーを 2 度押すと◎マークが消えて、止めぬいが解消されます。



● 厚地の縫い方

☆ 厚い布を入れるとき

押え上げレバーを普通にあげた位置より上げると、押えはもう一段上に上がります。(手を離すと普通に上げた位置に戻ります)。

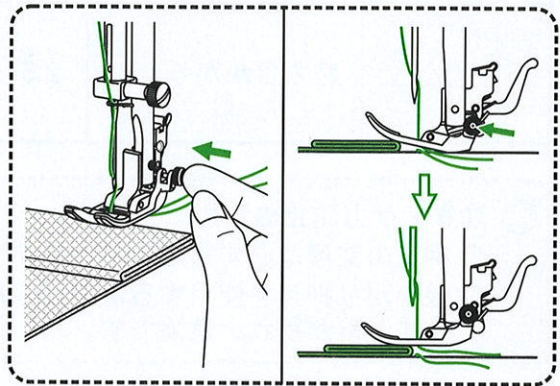


☆ 厚地の布端の縫い始め

縫い始めの位置に針をさし、基本押えの黒ボタンを押し込みます。

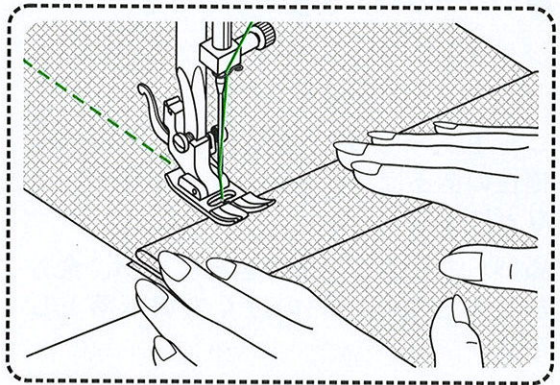
ボタンを押したままで、押えを下げます。

ボタンから手を離し、縫い始めます。



● 段縫い

布地が重なって、急に厚くなった部分を縫うときは、手で布の送りを助けながら縫います。

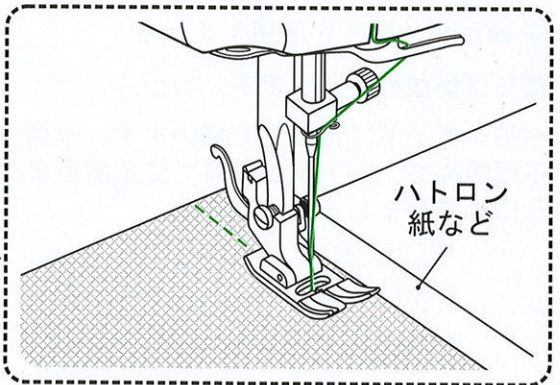


● 薄地の縫い方

薄い布地の場合、ぬい目がほつれてしまったり、布がうまく送れないことがあります。

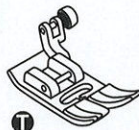
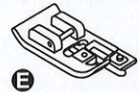
その場合は布地の下にハترون紙などの薄い紙を敷いて、布地と一緒に縫います。

縫い終わったら、紙を破いてとりのぞきます。



裁ち目かがり

裁断した布端がほつれないように縁かがりをします。

No	模様	模様の名称	ぬい目の長さ		ふり幅		押え
			自動	手動	自動	手動	
03	∧∧∧	ジグザグぬい	2.0	0.3~4.5	5.0	2.5~7.0	 ①
04	∧∧∧	点線ジグザグぬい	2.0	0.3~4.5	5.0	2.5~7.0	
14	⊥⊥⊥	アップリケ	3.0	1.0~3.0	3.5	2.5~7.0	
15	△△△	裁ち目かがり	2.5	1.0~3.0	5.0	2.5~7.0	 ②

⚠ 注意：ケガ防止のために

- 押えの交換は必ず電源スイッチを切ってから行ってください。
- 縁かがり押えを使用するときは、ぬい目の幅を"4"より小さくして使用しますと針が折れ、危険です。

● ジグザグ押えを使用するとき

ジグザグ及び、点線ジグザグぬい、ニットステッチをを選びます。

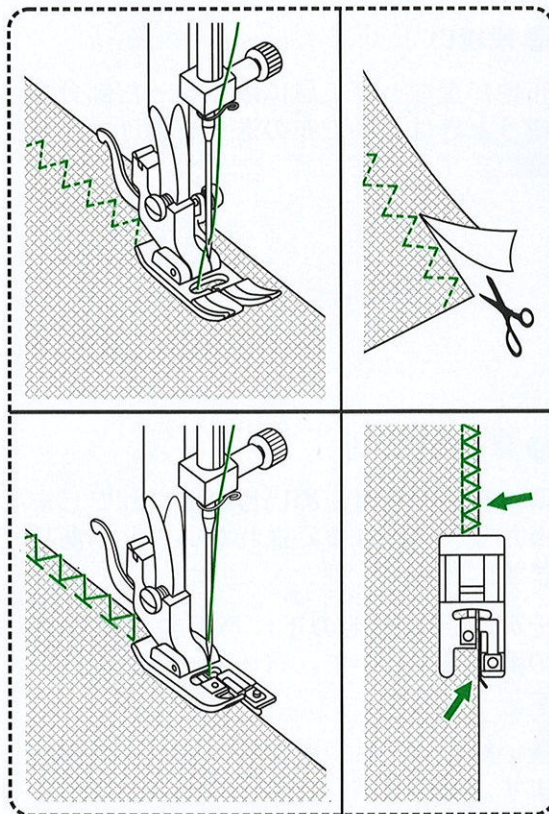
ニットステッチはほつれやすい布や伸縮性のあるほつれ止め、布端の返り防止などに使用します。

ぬいしろを少し余分にとってぬい、余分なところをぬいめの近くで切り落とします。

● 縁かがり押えを使用するとき




裁ち目かがりを選びます。

布端をガイドに合わせて縫います。糸調子は弱めで、上下糸が布端で交差するように調節しましょう。




ボタンホール

ボタンホールは次の3つの模様から選びます。

-  ボタン穴かがり シャツ・ブラウスなどのボタンホール。
-  ネムリ穴かがり シャツ・ブラウスなどの横向きのボタンホールを作るとき。
-  ハトメ穴かがり コート・ジャケットなどの厚いボタンホールを作る。ときなどに使用します。

No	模様	模様の名称	ぬい目の長さ		ふり幅		押え
			自動	手動	自動	手動	
18		ボタン穴かがり	0.5	0.3~1.0	5.0	2.5~7.0	
19		ネムリ穴かがり	0.5	0.3~1.0	5.0	2.5~5.5	
20		ハトメ穴かがり	0.5	0.3~1.0	7.0	5.5~7.0	

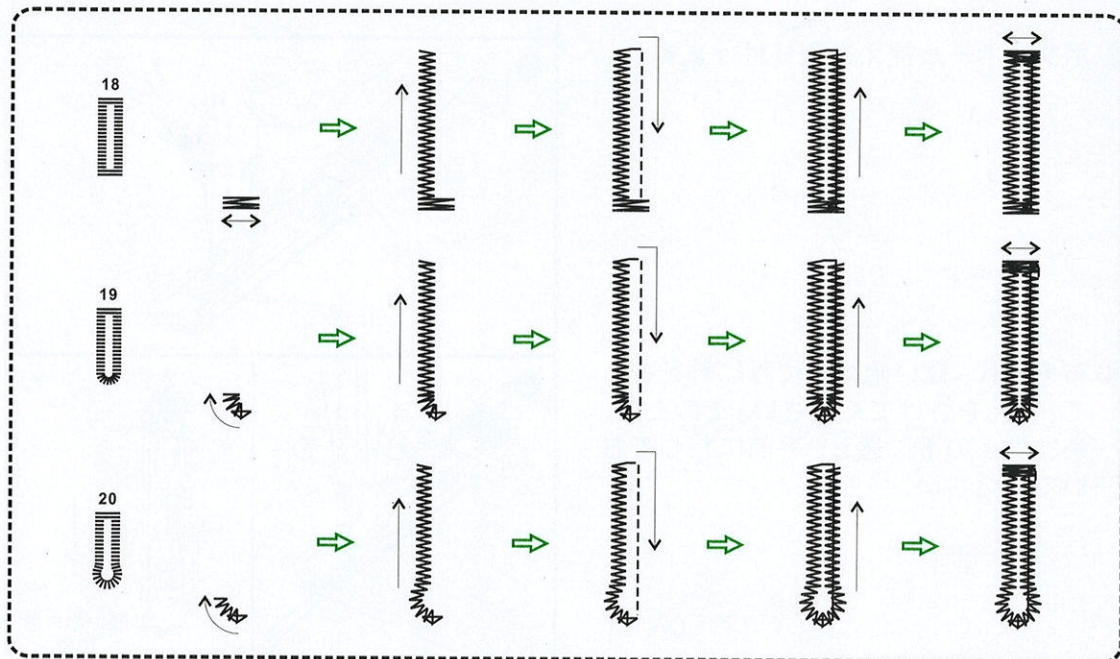
 **注意:** ケガ防止のために

○押えの交換は必ず電源スイッチを切ってから行ってください。

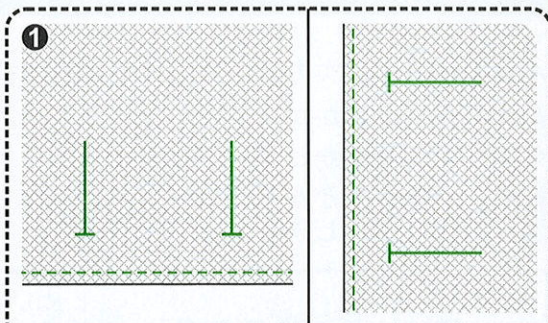
「ボタンの直径+厚み」3cmまでのボタンホールができます。

ぬうときは、必ずぬうものと同じ布地(残り布)で試しぬいをしてからぬってください。

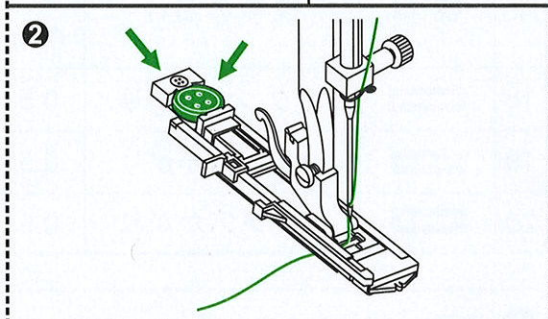
ボタンホールは次の順序でぬわれます。



- ① ボタンホールをする位置にチャコペンなどでしるしを付けます。



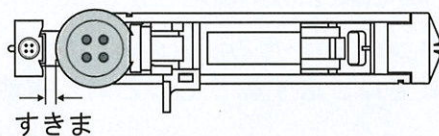
- ② ボタンホール押え (D) の台皿を引き出し、ボタンをのせてはさみます。



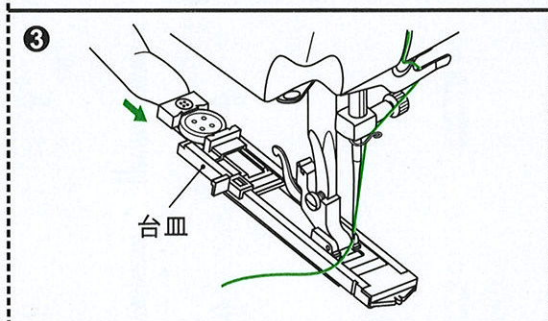
- 台皿のすきまをあけて、位置決めすると、その分大きいボタンホールができます。

- ボタンが台皿にのらないとき

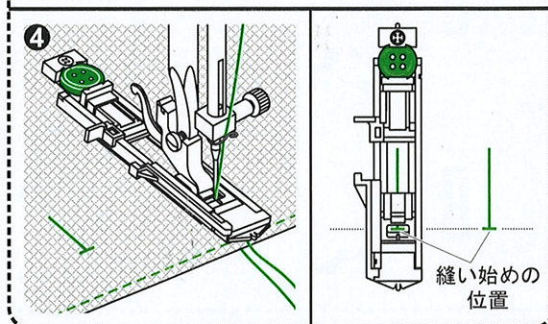
「ボタンの直径+厚み」を、押えスケールの目盛り(1目盛5mm)に合わせて、大きさを決めます。



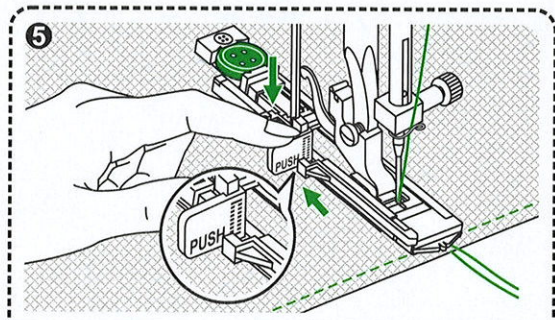
- ③ ボタンホール押えを取り付けます。



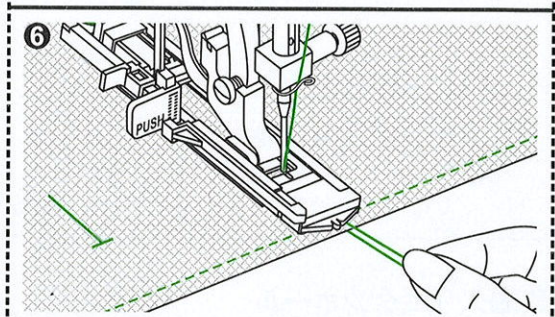
- ④ 布を入れ、縫い始めの位置に針をさして、押えをさげてください。そのとき、糸は押えの下に通し、手前にだしておいてください。



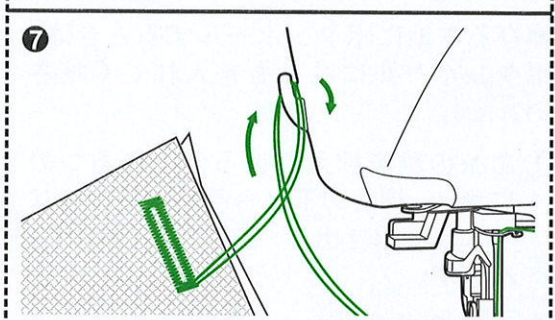
⑤ ボタン穴かがりレバーが止まるまで下げ、レバーをうしろへかるく押します。



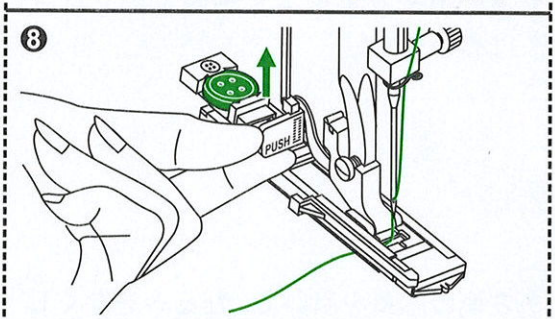
⑥ 左手で上糸を軽く持ち、ミシンをスタートさせます。
ぬい終わると、自動的に止めぬいをして止まります。



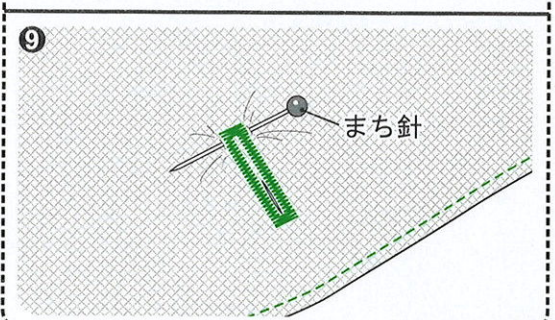
⑦ 押えを上げて布地を取り出し、糸を切ります。



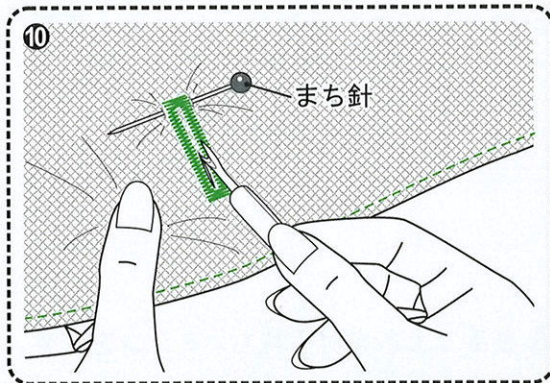
⑧ ボタン穴かがりレバーをもとに戻します。



⑨ ぬった部分を切らないように、かんぬき止めの内側にまち針を刺します。



- ⑩ 付属のリッパーでボタンホールを切り開きます。



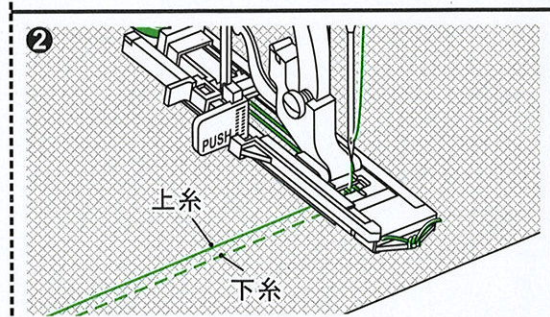
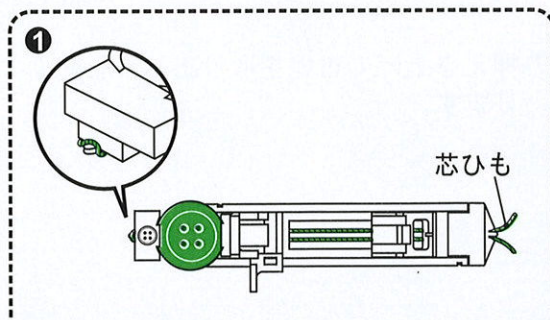
注意: ケガ防止のために

○ リッパーで穴を開けるとき、リッパーの先方に、手や指を置かないでください。すべったときにケガをするおそれがあります。

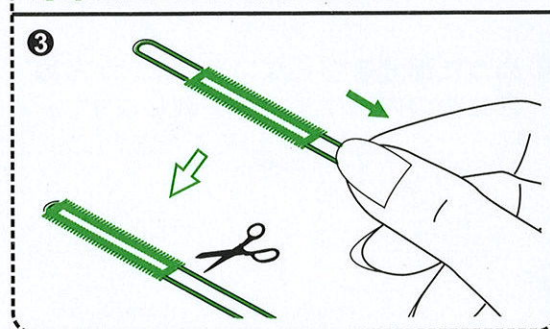
● 芯入りボタンホール

伸びる布地にボタンホールするときは、ボタンホールに芯ひもを入れてください。

- ① 芯糸の輪を押えの後ろ側にあるつものかけ、押えの下から手前に平行になるように引き出し、前側の案内にはさみます。
- ② 通常のボタンホール手順と同じようにぬいます。



- ③ 左側の芯糸を引いて、たるみをなくし余分な糸を切ります。



まつり縫い

布地の表面に目立たないぬい目を作る縫い方です。
ズボンやスカートの裾、袖口の裁縫に用います。お子さんの服のたけの直しなどにもぜひご利用ください。

No	模様	模様の名称	ぬい目の長さ		ふり幅		押え
			自動	手動	自動	手動	
05		まつりぬい	2.0	0.5~4.5	3.5	2.5~7.0	
07		伸縮まつりぬい	1.0	0.5~4.5	3.5	2.5~7.0	

注意：ケガ防止のために
○押えの交換は必ず電源スイッチを切ってから行ってください。

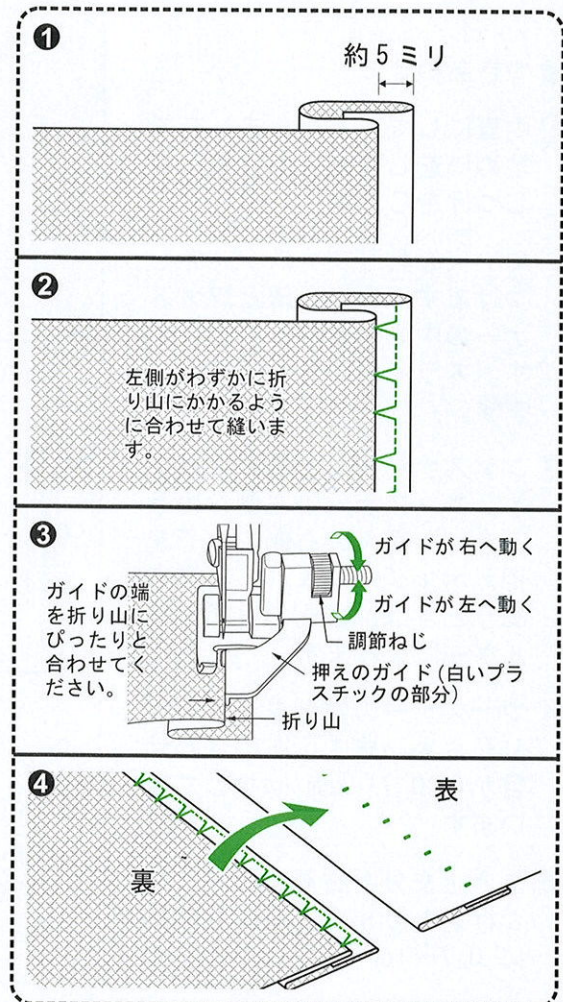
- ① 布地は右図のように折ります。
縫い上り後の布地の裏・表を間違えないように十分注意してください。

- ② はずみ車を回して針が最も左側になるようにしておきます。その時に針が折り山にわずかに刺さるように布の位置、を合わせて縫います。

- ③ 折り山に押えのガイドを合わせてぬいます。

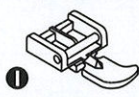
※ブラインドステッチ押えのネジを回して折り山に押えのガイドがぴったりとあたるように調節してください。

- ④ ぬい終わりましたら布地を折り返します。



ファスナー付け

ファスナーは機能的なうえ、装飾にもなります。

No	模様	模様の名称	ぬい目の長さ		ふり幅		押え
			自動	手動	自動	手動	
01	0-----	直線ぬい(中)	2.5	0.0~4.5	-	-	

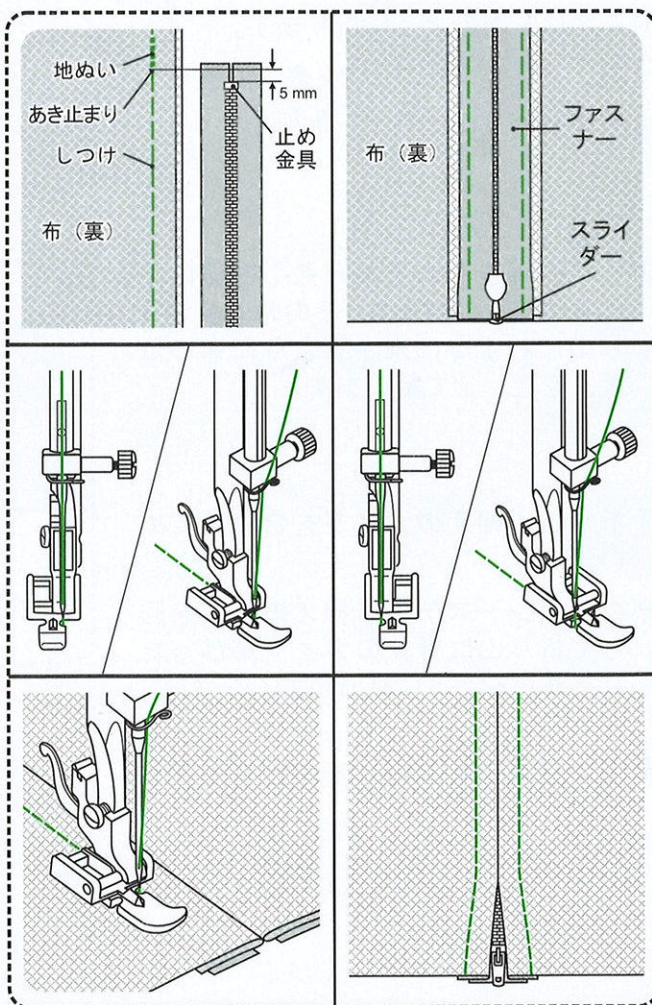
⚠ 注意: ケガ防止のために

- 押えの交換は必ず電源スイッチを切ってから行ってください。
- ファスナー押えは、必ず直線だけにお使いください。
ほかの模様では、針が押えに当たって折れ危険です。

ファスナーの付け方には「つきあわせ」と「脇あき」の方法があります。

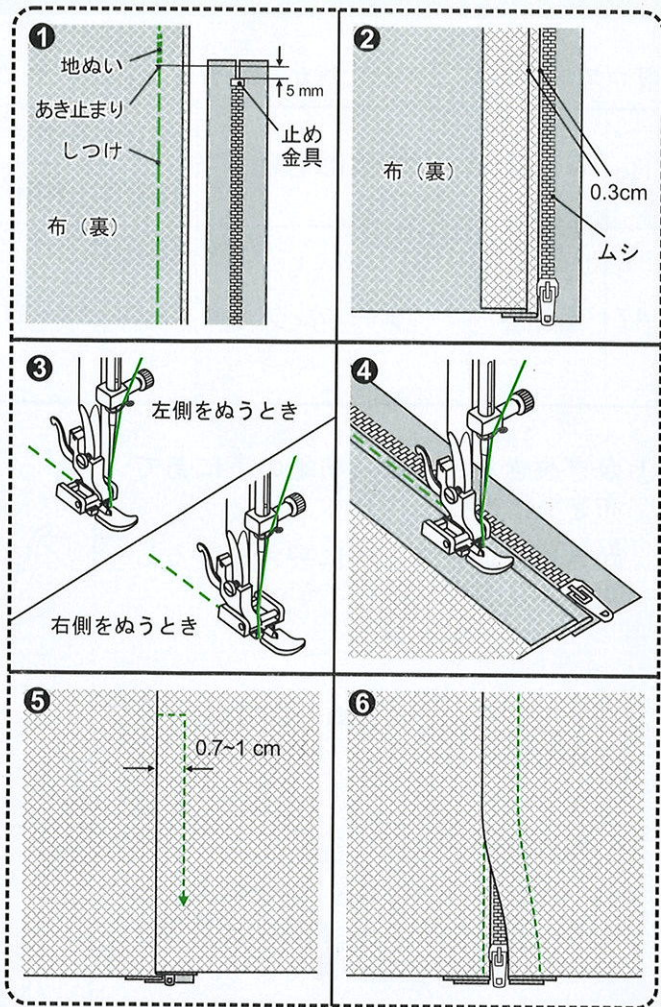
● つきあわせ

- ① 中表にして、あき止まりまで地ぬいをします。あき部分はしつけをします。
- ② ぬい代をわりファスナーをしつけます。ぬい目線とファスナーの中心を合わせてとめます。スライダーは手前に倒します。
- ③ ファスナー押えを取り付けます。ファスナーの左側をぬうときは、押えの右側のみぞを押えホルダーに入れ、右側をぬうときは、左側のみぞをホルダーに入れます。
- ④ ファスナーの左側をあき止まりからぬいます。布の合わせ目から 0.7~1cm はなしてぬいます。
- ⑤ あき止まりと右側をぬい、しつけをとります。右側も同様に 0.7~1cm はなしてぬいます。



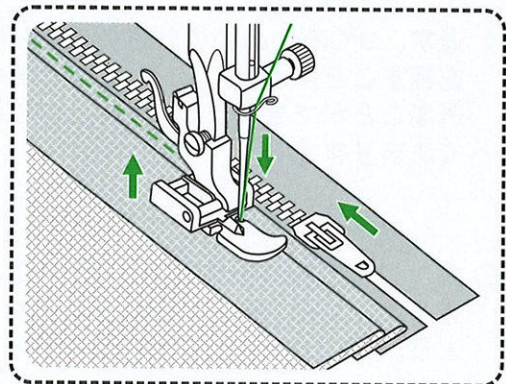
● 脇あき

- ① 中表にして、あき止まりまで地ぬいをします。あき部分はしつけをします。
- ② ぬい代をわり・下の布のぬい代を 0.3cm 出して折り目をつけ、折り山をムシに合わせます。
- ③ ファスナー押えを取り付けます。
ファスナーの左側をぬうときは、押えの右側のみぞを押えホルダーに入れ、右側をぬうときは、左側のみぞをホルダーに入れます。
- ④ ファスナーの左側をあき止まりからぬいます。押えがファスナーのムシにのらないようにしてぬいます。
- ⑤ 上の布を開き、あき止まりと右側をぬいます。右側は布の折り目から 0.7~1cm はなしてぬいます。
- ⑥ スライダーの手前で止め、しつけを取り、スライダーを下げて残りをぬいます。




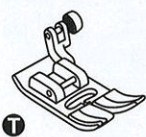
● スライダーをよけてぬうには

1. スライダーの手前でミシンを止めます。
2. 針を下げて布に刺します。
3. 押えを上げて、スライダーを向こう側へ下ろします。
4. 押えを下げてぬい続けます。



つくろいぬい

服やズボンのちょっとしたかぎ裂きなどの破れをつくろいます。

No	模様	模様の名称	ぬい目の長さ		ふり幅		押え
			自動	手動	自動	手動	
17		ダーニング	2.5	1.5~3.0	7.0	3.5~7.0	

① かぎ裂きなどをした布地の下にあて布を重ねます。

かぎ裂きの中央上部に押えを下ろします。

② つくろいぬいをするぬい目の長さ(a)を決めます。

スタート・ストップキーを押して、ぬい始めます。

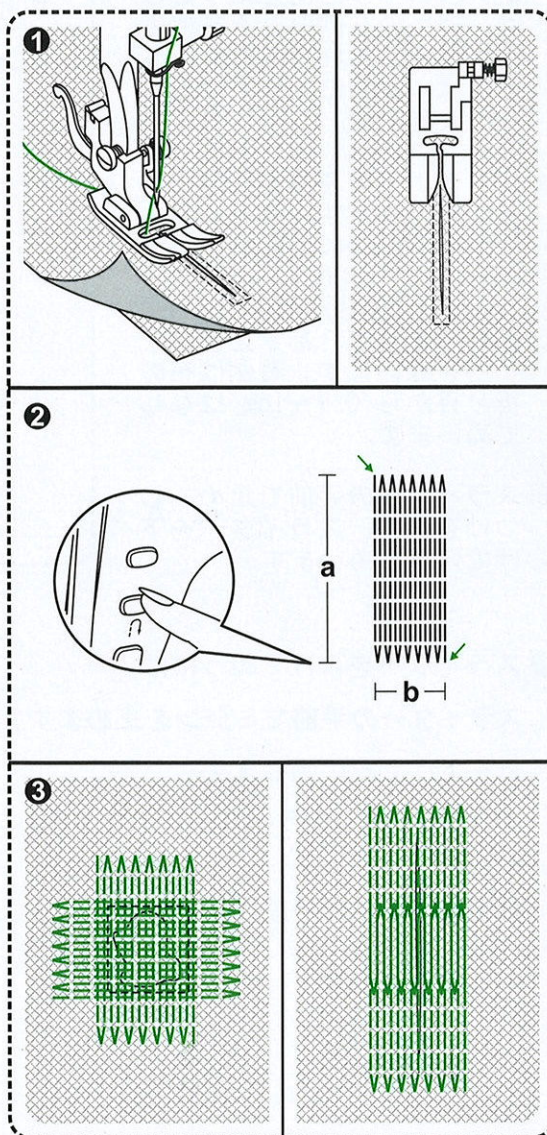
ぬいたい長さになったら、次に返しぬいキーを押しますと、自動的に前後進合せて15本の直線がぬえます。

a ぬい目の長さ

b ふり幅

通常、つくろいぬいの針位置はふり幅を押すことによって3.5~7.0の間で選ぶことができます。ふり幅は針位置で決まります。

○ 大きなつくろいをするときは、針位置をかえながら、何回かぬうとよいでしょう。



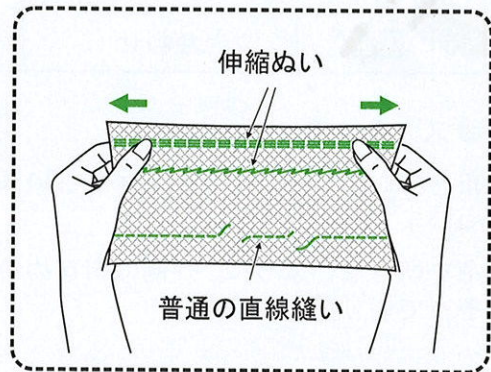
伸縮ぬい

No	模様	模様の名称	ぬい目の長さ		ふり幅		押え
			自動	手動	自動	手動	
11		伸縮強化ぬい	3.0	1.0~3.0	-	-	
12		ニットステッチ	2.5	1.0~3.0	-	-	

伸縮強化ぬいは直線の三重ぬいです。丈夫で伸縮性のあるぬい目なので、力がかかってほつれやすい部分やデニムなどの厚地の布地のぬい合わせに最適です。

伸縮ぬいは、伸び縮みがきき、布地を伸ばしてもぬい糸はきれません。

いずれも、伸びる布の地ぬいなどにお使い下さい。ぬい方は直線ぬいと同じです。

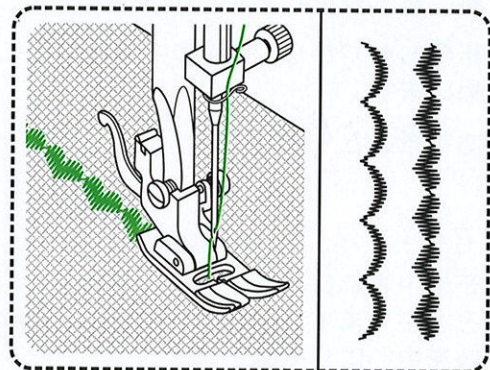


飾りぬい

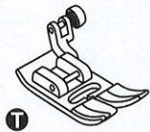
No	模様	模様の名称	ぬい目の長さ		ふり幅		押え
			自動	手動	自動	手動	
08		スカラップ	0.4	0.3~1.0	7.0	2.5~7.0	
09		飾りぬい	0.4	0.3~1.0	7.0	2.5~7.0	
16		飾りぬい	2.5	1.0~3.0	7.0	2.5~7.0	

模様を連続してぬうことにより装飾的な効果を得ることができます。

押えはジグザグ押えでもかまいませんが、ジグザグ模様の細かいぬい目ピッチには、密着押えを使うと布の送りがたやすくできます。



その他の応用ぬい

No	模様	模様の名称	ぬい目の長さ		ふり幅		押え
			自動	手動	自動	手動	
06	∧...∧	シェルタック	2.0	0.5~4.5	5.0	2.5~7.0	
08	∩	スカラップ	0.4	0.3~1.0	7.0	2.5~7.0	
10	×××	ファゴティング	3.0	1.0~3.0	7.0	2.5~7.0	
13	∩∩∩	つき合わせ	3.0	1.0~3.0	5.0	2.5~7.0	

● スカラップ

布をおもてから、布端を1cmくらい残してぬいます。

糸を切らないように、外側の布をぬい目にそって切り落とします。

● シェルタック

うす手の布をバイヤスに2つ折りにし、右側を輪にして押えの下におきます。

はずみ車を手前に回して針が右にきたとき、布端ぎりぎりの外側におりるようにして縫います。

布を開いて、タックされた山をアイロンで片側にたおします。

● ファゴティング

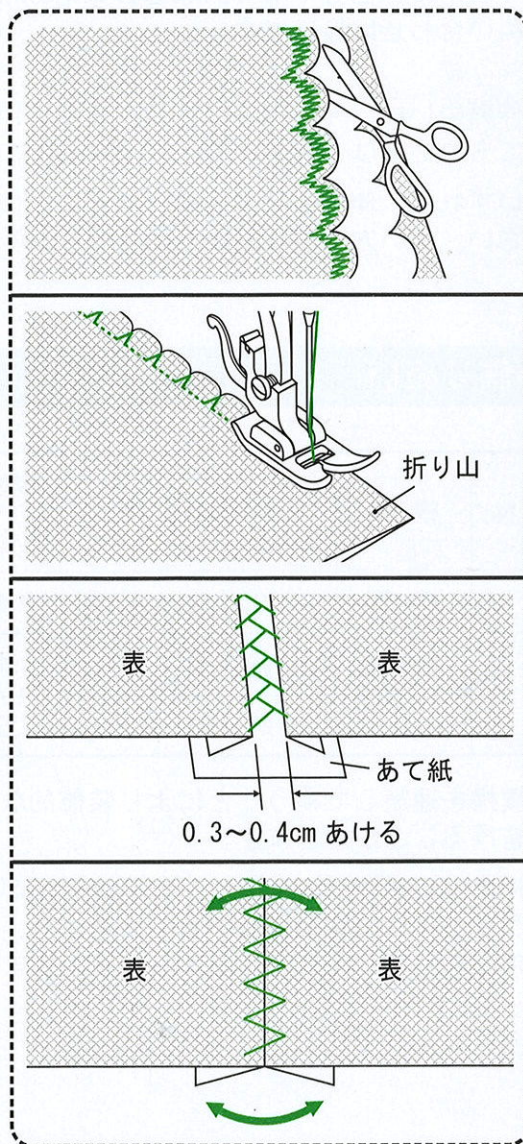
布端と布端の間隔を0.3~0.4cmあけて、裏にあて紙をします。

布のおもてから、間隔の中央を中心にしてぬいます。

あて紙をとります。

● パッチワーク

布を中表に合わせ、地ぬいをして、ぬいしろを割ります。布のおもてから、地ぬいの線を中心にしてぬいます。

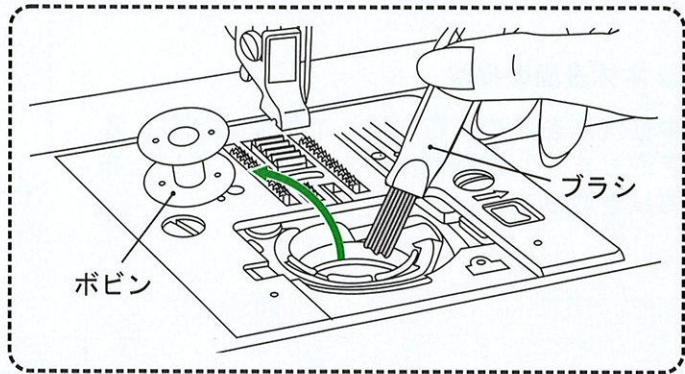


ミシンの手入れ

- ⚠ 注意：ケガ防止のために
お手入れの際は必ず電源プラグを抜いてください。

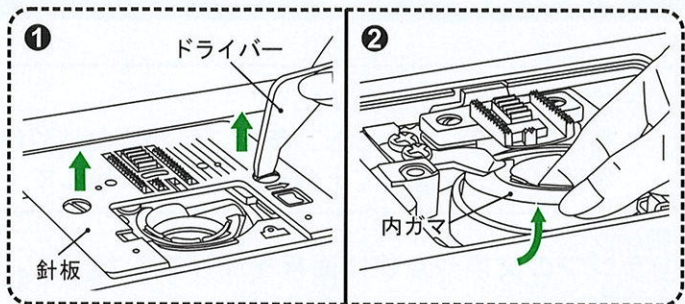
● かまの掃除

- ① かまカバーをははずしてボビンを取り出します。
- ② ブラシで糸くずやほこりを掃除します。



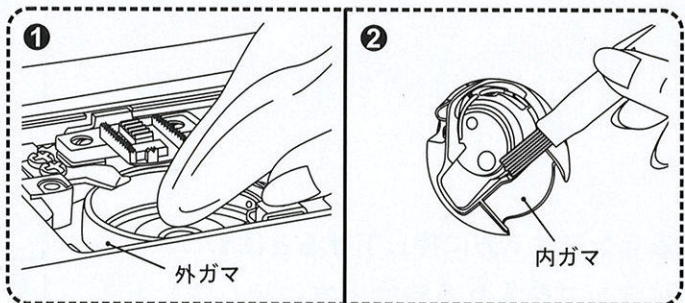
● かまの分解

- ① 針板の止めネジ(2ヶ所)を付属のドライバーではずし、針板を取ります。
- ② ボビンを取り出してから、ボビンケースの手前を上へ引きながらはずします。



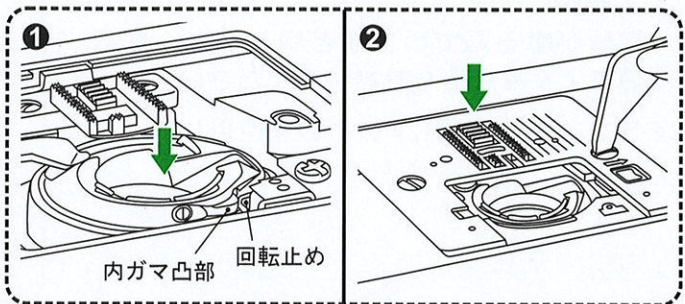
● 内がまと送り歯の掃除

- ① 送り歯のゴミをブラシで払い、外がまの中央部を布などで軽く拭きます。
- ② 内がまをブラシで掃除し、布で軽く拭きます。



● かまの組み立て

- ① 内がまを差し込み、内ガマの凸部を回転止めの左側に納めます。
- ② 針板を置き、2か所の針板の止めネジを締めます。



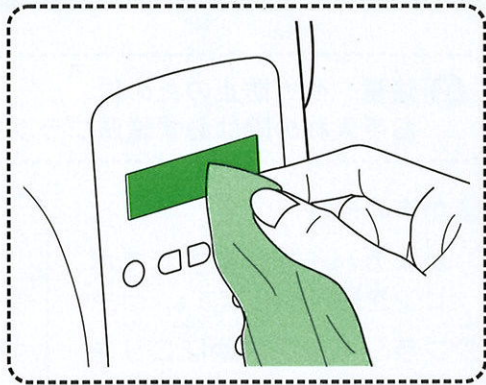
● 液晶表示窓の清掃

窓が汚れている場合、乾いた布で軽くやさらかく、拭いてください。

洗剤や有機剤など使用しないでください。

● 本体表面の掃除

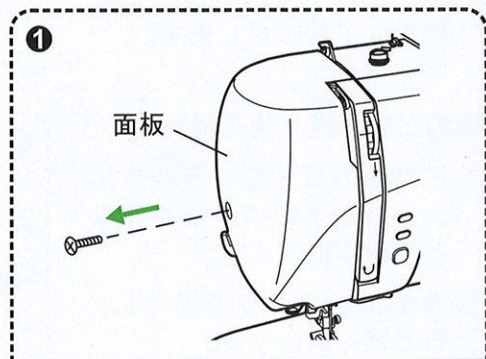
中性洗剤を薄めて布に浸して固くしぼり、ふき取ります。洗剤で拭いたあとは、乾いた布で拭き取ります。



ランプの交換

⚠ 注意：ケガ防止のために
長時間使用していると、ランプが熱くなりやけどをする恐れがあります。
電源プラグを抜いて十分冷えてから交換してください。

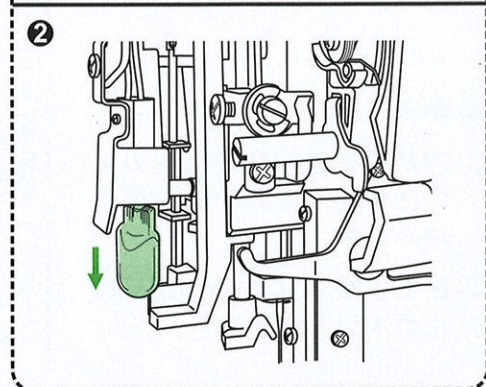
① ランプの交換や点検は面板を開けてください。



② ランプは下方に押し下げるとはずれます。
ランプを入れる時は上方に押し込むと入ります。

電球がゆるんでいますと切れやすくなるのでよく押し込んでおいてください。

※ ランプは必ず 5W12V のものを使用してください。



困ったときには

ミシンの調子が悪い場合は、まず次のことを確かめてください。

不調の状態	原因	処置	参照ページ
ミシンが動かない	○電源が入っていない。	電源をいれます。	10
	○スタート・ストップキーを押していない。	スタート・ストップキーを押します。	7
	○フットコントローラー(別売り)が取り付けられている。	コントローラーで操作するか、コントローラーをはずします。	46
	○糸巻き軸が右へ押されている。	左へもどします。	13
	○押えが上がっている。	押えを下げます。	21
	○ボタンホールぬいで、ボタンホールレバーがきちんと下がっていない。	きちんと下げます。	32
	○かまに、糸やゴミがたまっている。	糸やゴミを取りのぞきま す。	
布地が縮む	○上糸の調子がつよすぎるとき。	適正な強さに調整します。	24
	○上糸の掛け方がちがっていたり、余分な箇所 に引っかかっているとき。	正しく掛け直します。	16
	○布地に対して縫い目の長さが長すぎる時。	適正な長さにセットしま す。	25
縫い目に輪ができる 針が折れる	○上糸、下糸の調子が完全でないとき。	適正な強さに調整します。	24
	○細い針で厚地を縫ったり、細い針に太い糸を使ったとき。	布地に合った針や糸を使 います。	20
	○針の取り付けかたが悪かったり、曲った針を使用したとき。	正しくつけ直します。	19
	○布地を無理にひっぱったとき。	手は布地にそえるだけ にします。	26
	○針が正しく取り付けられていない。	針を正しく取り付けま す。	19
	○模様に対し押えがあつていない。	模様に合った押えを取 りつけます。	25, 29-39

不調の状態	原因	処置	参照ページ
布地を送らない	○ぬい目長さが布地にあつていない。	ぬい目の長さをセットしなおします。	25
	○針が曲がっていたり、針先がつぶれているとき。	針をとりかえます。	19
	○針が糸の太さと合っていないとき。	布地に合った針や糸を使います。	20
	○上糸の掛け方がちがっているとき。	正しく掛け直します。	15
縫い目かとぶ	○針が正しく取り付けられていないとき。	正しくつけ直します。	19
	○針板の下に糸くずがからまっているとき。	掃除します。	40
	○針と布糸の材質が合っていないとき。	布地に合った針や糸を使います。	20
	○糸の掛け方がちがっているとき。	正しく掛け直します。	16
上糸が切れる	○針が曲がっていたり、先端がつぶれているとき。	針を取りかえます。	19
	○針が糸の太さと合っていないとき。	布地に合った針や糸を使います。	20
	○上糸の調子が強すぎる時。	適正な強さに調整します。	24
	○針の取り付けかたがちがっているとき。	正しくつけ直します。	19
下糸が切れる	○糸が必要以外のところからみついているとき。	糸を掛け直します。	16
	○ボビンのセットがまちがっている。	正しくセットしなおします。	14
	○かまの中で下糸がからみあっているとき。	からんだ糸を取りのぞきまます。	14
	○ボビンが下糸巻き軸に完全にさしこまれていないとき。	完全に差込みます。	14
ボビンに糸が巻けない	○ボビンが下糸巻き軸に完全にさしこまれていないとき。	完全に差込みます。	14

この項に記載されている項目以外の不調、または部品の交換、電気系統の故障の修理サービスは、ご購入店におたずねください。

修理サービス要領

● 修理サービスのご相談

1. このミシンのご購入者には、ご購入店から1年間の「無料修理保障書」が発行されます。内容をお確かめの上、大切に保存してください。
2. 修理サービスは無料保障期間内および期間経過後も原則としてご購入店が承りますので、ご相談ください。

● 修理用部品の保存と供給

動力伝達機能部品および縫製機能部品のうち、交換修理に必要な部品は、ご購入の日から通常8年間には必要に応じて当社よりご購入店に供給できる体制を整えております。

● 無料修理保障期間後の修理サービス

1. 使用の手びきに基づいて正しい使用とお手入れがされていれば、無料修理保障期間を経過しても修理用部品の供給可能期間中は、ご購入店を通じて有料で修理サービスをいたします。
 - イ. 保存上の不備または、誤使用により不調、故障または損傷したとき。
 - ロ. 浸水、冠水、火災等、天災、地震により不調、故障または損傷したとき。
 - ハ. ご購入後の移動または輸送によって不調、故障または損傷したとき。
 - 二. ご購入店または当社の指定する販売店あるいはサービス店以外で修理、分解または改造したために不調、故障または損傷したとき。
 - ホ. 職業用として無理な誤使用により不調、故障または損傷したとき。
2. 長期間にわたってご使用されたミシンの精度の劣化は修理によっても元どおりに修復できないことがあります。
3. このミシンは持ち込み修理品ですので、修理の際はご購入店までお持込みくださるよう、お願いいたします。

仕 様

形 式	BC8500
定 格 電 圧	100V
消 費 電 力	70W
周 波 数	50Hz/60Hz
ランプ定格	5W 12V
寸 法	幅:412 mm×奥行:178 mm×高さ:296 mm
重 量	約 8.25kg(本体のみ)

フットコントローラー(別売り)

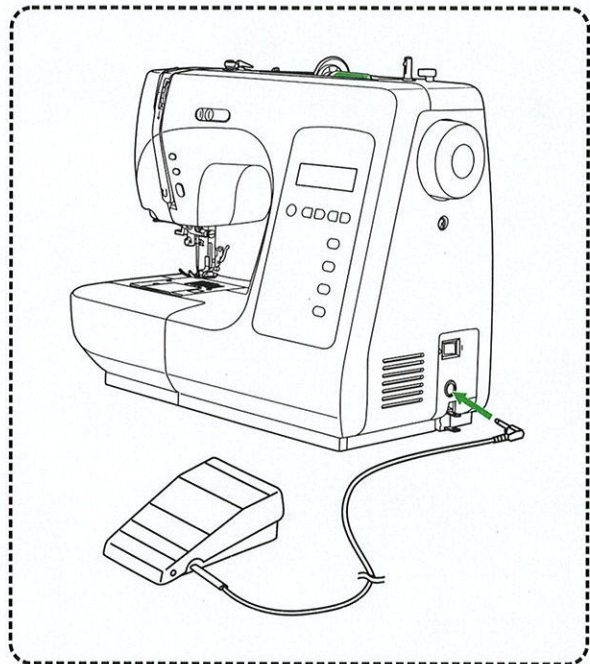
○フットコントローラーを使いますとミシンのスピードを足で調節することができます。

⚠ **警告:** 感電、火災を防ぐために
コントローラは落としたり、座布団の下において使用しないでください。

⚠ **注意:** ケガ防止のために
コントローラーを接続するときは必ず電源スイッチを切ってください。

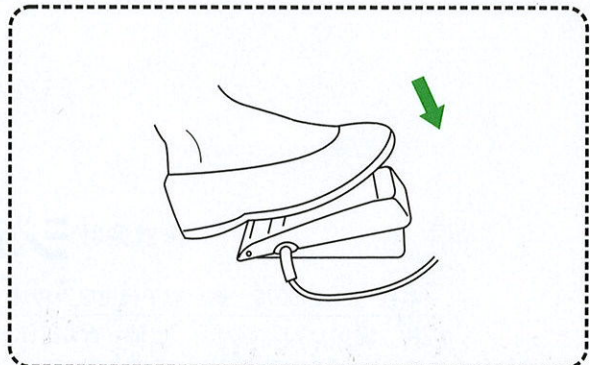
●接続の仕方

●右図のように、フットコントローラーのプラグをコントローラー差込口に差し込んで接続します。



●コントローラーの使い方

かるく踏む — ぬいスピードはおそい
ふかく踏む — ぬいスピードははやい



株式会社 **ジューキ**

本社/〒102-0073 東京都千代田区九段北 1-11-11 TEL 03(3265)2851(代表)

札幌 011(737)6821 仙台 022(239)3705 新潟 0250(43)4451

東京 03(3265)8741 名古屋 052(917)3671 大阪 06(6768)3651

倉敷 086(473)0355 広島 082(227)5781 福岡 0942(44)7921

修理等のご依頼はお買い上げの販売店を通じてご連絡ください。